SONY®

3-217-399-**03**(1)

DVDホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DAV-DZ220

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

⬇

安全のための注意事項を守る

5 ～ 7 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。8 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

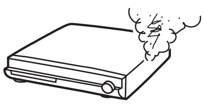
設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

次のページへつづく

その他の機能

詳細な設定と調整

その他

⚠警告

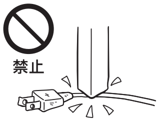


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

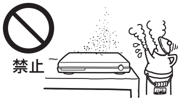
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光の当たる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

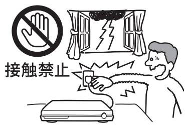
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



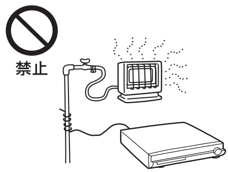
本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



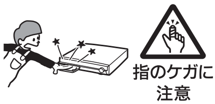
風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない



布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



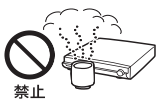
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



ディスクトレイの前に物を置かない

ディスクを取り出す際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



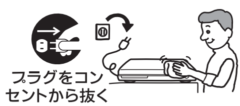
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

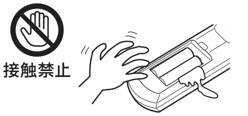
液漏れ・破裂・発熱による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

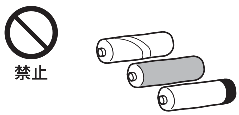
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



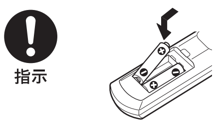
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

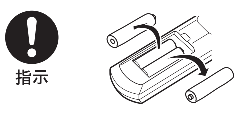
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体後面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体後面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本体を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスク、ディスククリーナーについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクやディスククリーナー（湿式またはスプレー式）は、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

輸送時のご注意

セットを輸送する場合は、必ず本体からディスクを取り出し、電源コードを抜いてください。
但し、電源コードを長時間抜いた場合は、設定がクリアされることがあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じ名前の本体のボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書で“DVD”とは、“DVDビデオ”、“DVD+RW/DVD+R”、“DVD-RW/DVD-R”の一般的な総称として使っています。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD-V	DVDビデオ/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）/DVD+R/DVD+RWで使える機能
DVD-VR	DVD-R/DVD-RW（VRモード）で使える機能
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能（スーパー VCD、ビデオCDまたはスーパーVCDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
CD	CDで使える機能（音楽用CD、または音楽用CDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
DATA-CD	データCD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むCD-ROM/CD-R/CD-RW）で使える機能
DATA DVD	データDVD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むDVD-ROM/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW）で使える機能

* MPEG 1 Audio Layer3 : MPEGと国際標準化機構（ISO）/国際電気標準会議（IEC）によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
DVD-RW*	DVD RW
DVD-R*	DVD R R4.7
DVD+RW／DVD+R	RW DVD+ReWritable RW DVD+R RW DVD+R DL
ビデオCD（バージョン1.1/2.0）、音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD-R/CD-RW（音楽データ）（MP3音声トラック）（JPEG画像ファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable COMPACT disc ReWritable COMPACT disc Recordable

“DVD VIDEO”、“DVD-RW”、“DVD-R”、“DVD+RW”、“DVD+R”、“DVD+R DL”、“CD”ロゴは商標です。

* CPRM対応のDVD-R/DVD-RWディスクに録画した「1回だけ録画可能」な番組も再生できます。CPRM（Content Protection for Recordable Media）とは、「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術です。

次のページへつづく

ディスクについてのご注意

本機では以下のフォーマットで記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RWを再生することができます。

ー 音楽用CDフォーマット
ー ビデオCDフォーマット
ー ISO 9660* レベル 1/ レベル 2、またはそれらの拡張フォーマット / Joliet 準拠の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイル

本機では以下のフォーマットで記録されたDVD-ROM/DVD+RW/DVD-RW/DVD+R/DVD-Rを再生することができます。

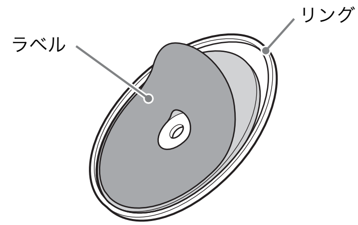
ー UDF（Universal Disk Format）準拠のMP3音声トラック、JPEG画像ファイル

* ISO9660フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定したCD-ROMの論理フォーマット。
レベル1からレベル3まで、3段階の交換レベルを設けています。レベル1は、最も制限の厳しいレベルで、ファイル名は8.3形式（ファイル名は最大8文字、拡張子は最大3文字まで）という制約があります。レベル2はファイル名の長さの制約が31文字にまで緩和され、レベル3ではマルチエクステントが許容されています。

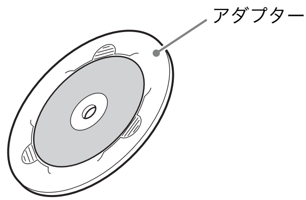
再生できないディスク、ファイルについて

本機では次のディスク、ファイルなどを再生することはできません。

- 「再生できるディスクについて」（9ページ）にあるフォーマット以外で記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RW
- MP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含まないデータDVD
- フォトCDフォーマットで記録したCD-ROM
- CD-EXTRAのデータ部分
- スーパーオーディオCD
- DVDオーディオ
- DVD-RAM
- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVDビデオ（11、102ページ）
- MP3PROで記録されたMP3音声トラック
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク



- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使用したディスク



CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW/DVD+R DLディスクを再生できます。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- 終了情報を記録するファイナライズ作業を行っていないディスクは再生できません。
- パケットライト方式で作成されたディスクは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DualDisc（デュアルディスク）についてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback（プレイバック） Control（コントロール）の略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、63 ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

マルチセッションCDについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDビデオのパッケージには地域番号が表示されています。
地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。



DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

次のページへつづく

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

本機は5.1チャンネルを完全にデコードしますが、市販のサラウンドスピーカーをつないで使うことはできません。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、AACロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
**DTS, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Incの商標です。

本製品の日本語表示には、株式会社リコー所有の文字フォントを使用しています。

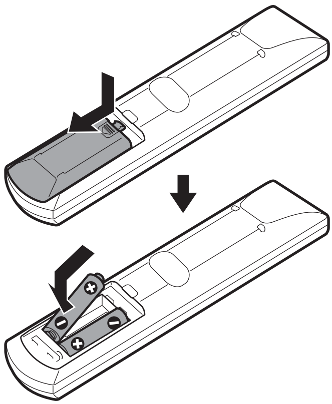
接続と設定―基本編

すべての付属品がそろっているかを主な仕様（100ページ）で確認してください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。

本機を操作するときは、本体のリモコン受光部（107ページ）にリモコンを向けて操作してください。

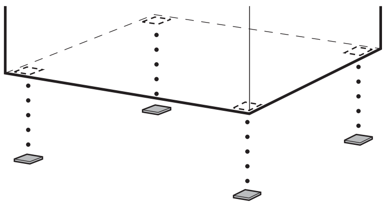


ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  ー 新しい乾電池と使用途中の乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  ー 乾電池は充電しないでください。
  ー 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  ー 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

サブウーファーの底面にスピーカーパッドを貼る

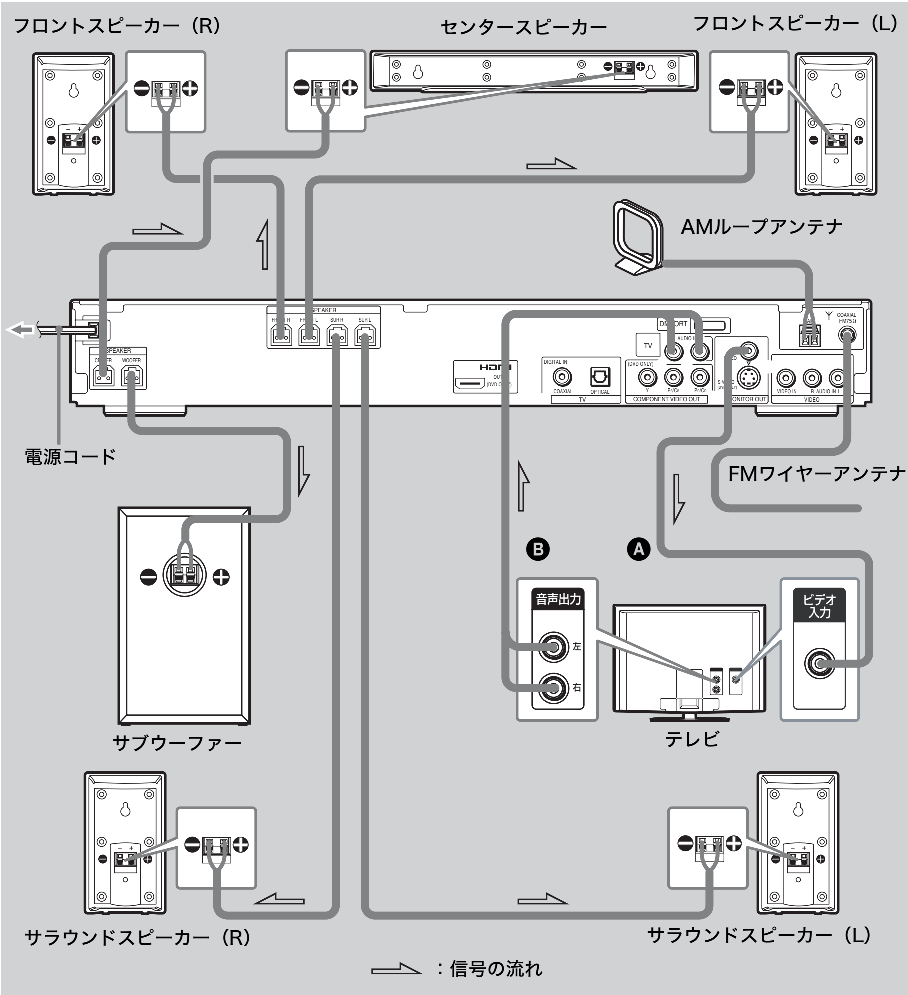
サブウーファーが振動で動かないように、サブウーファーの底面の四隅に付属のスピーカーパッドを貼ってください。



手順1：スピーカーやテレビをつなぐ

下記は本機とスピーカーやテレビの基本的な接続図です。
下記以外のテレビの接続については25ページをご覧ください。その他の機器の接続については31ページをご覧ください。
プログレッシブ対応のテレビにつないだ場合は、より高画質な映像を楽しむことができます。詳しくは28ページをご確認ください。

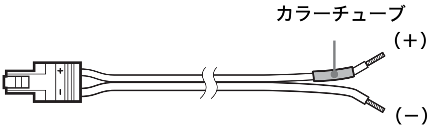
下記の接続図を参考に接続してください。また次ページの①〜④についてもお読みください。



①スピーカーをつなぐ

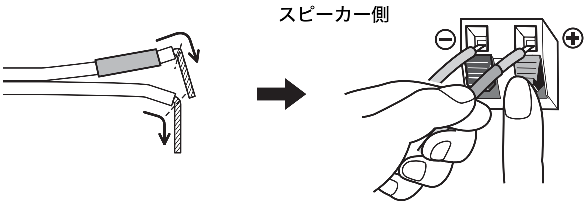
必要な接続コード

スピーカーコードのコネクターとカラーチューブは、つなぐスピーカー出力端子と同じ色になっています。

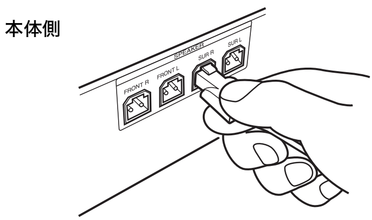


スピーカーコードの接続

カラーチューブがついたスピーカーコードを必ずスピーカー端子の+側につないでください。スピーカーコードを差し込むときは、必ず片手でレバーを押し下げ、もう一方の手でコードを差し込んでください。



スピーカーコードのコネクターを図のように持ち、スピーカー出力端子に奥までしっかり差し込んでください。



ご注意

- スピーカーコードの被覆部をスピーカー端子に挟み込まないようにつないでください。

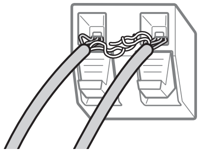
スピーカーのショートを防止する

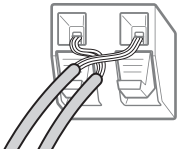
スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。
ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

次のページへつづく

スピーカーコード接続の悪い例



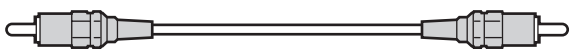


②テレビをつなぐ

必要な接続コード

Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ

映像コード（付属）を使って、テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO）をつなぎます。



Ⓑ 音声出力端子のあるテレビにつなぐ

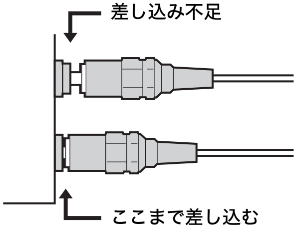
ステレオ音声コード（別売り）を使って、テレビの音声出力端子と本機の音声入力端子（TVのAUDIO IN）をつなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。

ファンクションの切り換えについて詳しくは「ラジオやつないだ機器の音を楽しむ」（34ページ）をご覧ください。



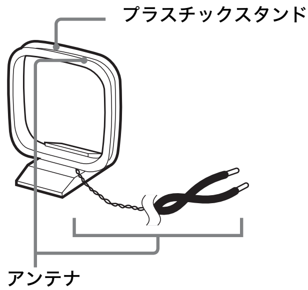
ちょっと一言

- AAC（70ページ）を楽しむには本機とテレビをデジタル接続する必要があります（29ページ）。
- テレビの音声を6本のスピーカーから出力したいときは、サウンドフィールドの「PRO LOGIC」、「PL II MOVIE」、または「PL II MUSIC」を選んでください。サウンドフィールドについて詳しくは38ページをご覧ください。
- コードをつなぐとき、プラグは根元までしっかり差し込んでください。



③アンテナをつなぐ

AMアンテナをつなぐ

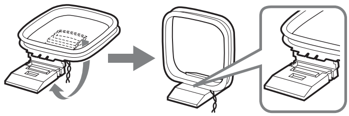


アンテナはAMの電波を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1　ループ（　）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

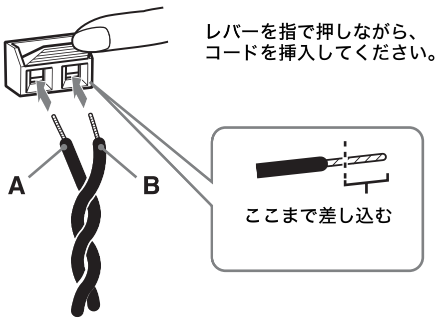
2　スタンド状に組み立てる。

台を起こし、溝にはめます。



3　AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

付属のＡＭループアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にもつなぐことができます。



次のページへつづく

ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

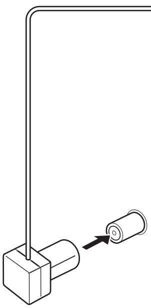
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きを受信状態の良い方向へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかり接続されたことを確認する。

FMアンテナをつなぐ

FMアンテナ端子（COXIAL FM 75 Ω）につないでください。

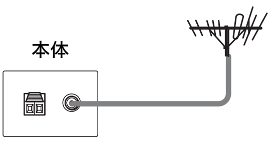


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、次のように、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぎます。



④電源コードをつなぐ

スピーカーやテレビをつないでから、本体の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

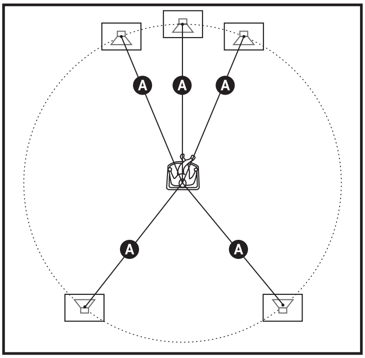
ご注意

- 本機は、コンセントの近くでお使い下さい。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断して下さい。

手順2：システムを設置する

スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください。本機ではスピーカーをリスニングポジションから0 m～7 mのところに設置が可能です（距離Ⓐ）。
具体的な設置場所については下図をご覧ください。



ご注意

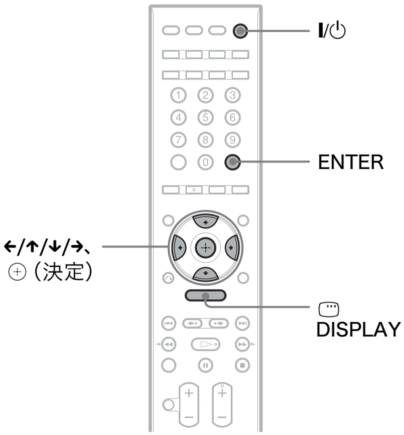
- スピーカーを以下のような場所には置かないでください。
  - 傾いた所。
  - 極端に温度が高い所または低い所。
  - ほこりの多い所。
  - 湿気の多い所。
  - ぐらついた台の上など。
  - 直射日光が当たる所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- お手入れのときは、眼鏡拭きのクロスのような柔らかい布を使ってください。
- 研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

ちょっと一言

- スピーカーの配置を変えた場合、設定の変更をおすすめします。詳しくは、「スピーカー設置に合わせて最適なサラウンド環境を設定する」（79ページ）、「自動でスピーカーを設定する」（81ページ）をご覧ください。

手順3：クイック設定をする

本機を使用するのに必要な最低限の設定を行います。



1 テレビの電源を入れる。

2 I/⏻ボタンを押し、本機の電源を入れる。

本体の表示窓に「DVD」が表示されます。「DVD」が表示されないときは、FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して「DVD」を表示させます。

ご注意

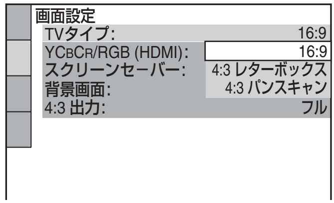
- クイック設定中はヘッドホンをつながないでください。ヘッドホンをつないでいると手順8以降の設定が行えません。

3 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

画面の下部に［クイック設定するには［ENTER］を押してください］のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されないときは、クイック設定画面を表示させて行ってください（22ページ）。

4 ディスクを入れない状態で⊕（決定）またはENTERボタンを押す。

つないだテレビの縦横比の設定画面がテレビに表示されます。



5 ↑/↓ で本機に接続したテレビ画面の縦横比を選ぶ。

■ワイドスクリーンタイプのテレビ、またはワイドスクリーンモードのある4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

［16:9］を選びます（85ページ）。

■4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

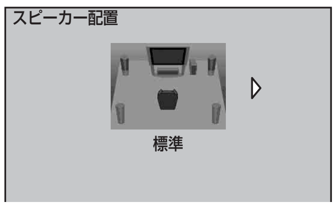
［4:3レターボックス］または［4:3パンスキャン］を選びます（85ページ）。

6 ⊕（決定）を押す。

スピーカー配置の設定画面が表示されます。

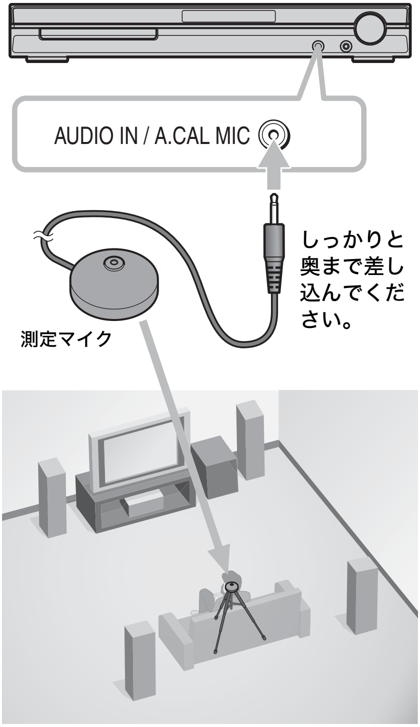
7 ←/→ で実際のスピーカーの設置場所と同じスピーカー配置のイメージ画面を選び、⊕（決定）を押す。

詳しくは「スピーカー設置に合わせて最適なサラウンド環境を設定する」（79ページ）をご覧ください。



8 本体前面のA.CAL MIC端子に測定マイクを接続し、↑/↓で［はい］を選ぶ。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。



9 ⊕（決定）を押す。

自動音場補正

測定マイクの接続を確認してください
測定を開始しますか

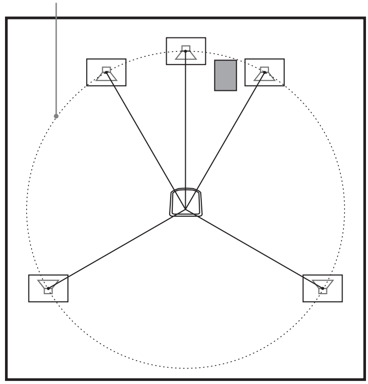
はい
いいえ

［自動音場補正］を開始します。

ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

測定エリア



10 測定マイクを抜き、←/→で［はい］を選ぶ。

測定が終了しました

フロントL :	5.00m	0.0dB
フロントR :	5.00m	0.0dB
センター :	5.00m	+ 1.0dB
サブウーファー :	5.00m	+ 4.0dB
サラウンドL :	3.00m	– 2.0dB
サラウンドR :	3.00m	– 2.0dB

この測定結果でよい場合は測定マイクを抜いて
「はい」を選択してください

はい　いいえ

次のページへつづく

ご注意

- 本機を置く部屋の環境によって、測定に影響を及ぼす場合があります。
- 測定が失敗したときは画面にしたがって［自動音場補正］を再度行ってください。
- ［スピーカー配置］で［セカンドルーム］を選んだときは、［サラウンドL］、［サラウンドR］の結果は表示されません。

11 ⊕（決定）を押す。

クイック設定は完了しました。すべての接続と設定作業は完了です。

クイック設定をやめるには

DISPLAYボタンを押す。

ちょっと一言

- スピーカーの設置場所を変更したときは、スピーカー設定を再度行ってください。詳しくは「スピーカー設置に合わせて最適なサラウンド環境を設定する」（79ページ）や「自動でスピーカーを設定する」（81ページ）をご覧ください。
- 設定を変更したいときは、「設定画面を使う」（83ページ）をご覧ください。

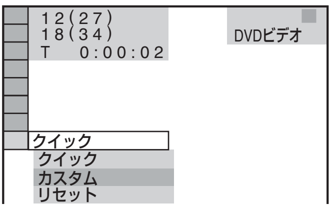
クイック設定の画面を呼び出すには

1 ディスクの再生中は、■ボタンを押して再生を止めてから、DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で ［設定］を選び、⊕（決定）を押す。

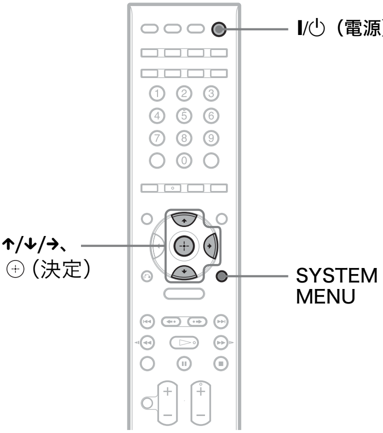
［設定］の項目が表示されます。



3 ↑/↓ で［クイック］を選び、⊕（決定）を押す。

クイック設定画面が表示されます。

デモンストレーションモードを設定する



1 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

2 **↑/↓で本体の表示窓に「DEMO」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。**

3 **↑/↓で本体の表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「DEMO ON」（オン）
  電源がオフのとき本体の表示窓にデモンストレーションが表示されます。
- 「DEMO OFF」（オフ）
  デモンストレーションが表示されません。

4 **⊕（決定）を押す。**

選んだ項目が設定されます。

5 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

システムメニューを終了します。

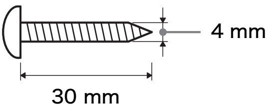
ちょっと一言

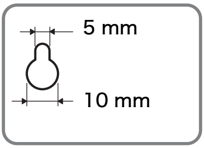
- お買い上げ後初めて電源を入れたときや、本機をリセット（「COLD RESET」（92ページ）を行ったときなど）した直後のみ、リモコンのI/⏻（電源）ボタンを押してデモンストレーションモードをオフにすることができます。

スピーカーを壁に取り付ける

1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売り）を用意する。

ネジのサイズについては下記の図でご確認ください。

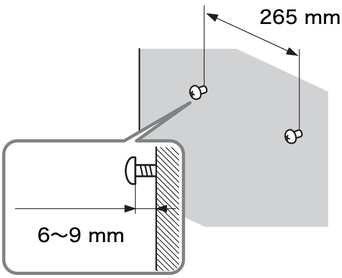




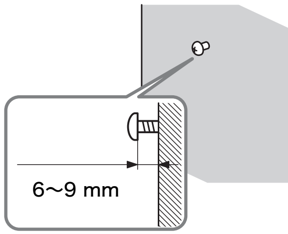
スピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。

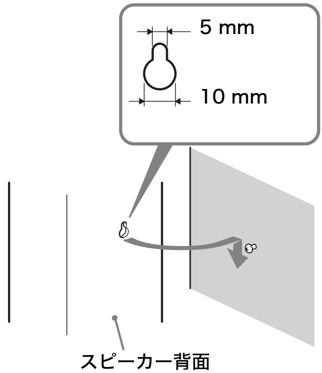
センタースピーカー



その他のスピーカー



3 スピーカー背面の穴をネジにかける。



ご注意

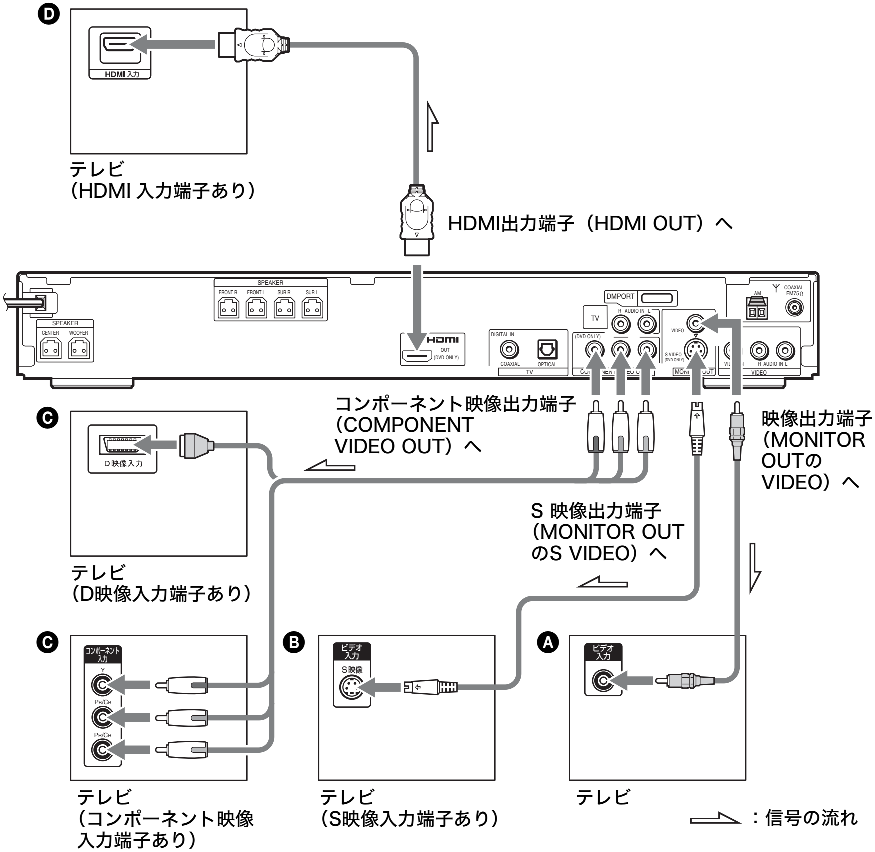
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

テレビをつなぐ（応用編）

お使いのテレビの端子に合ったコードを選びます。

映像コードやHDMI*ケーブルをつなぐ

再生するDVDの映像をテレビに送ります。
お持ちのテレビの端子に合わせて、下のⒶ、Ⓑ、Ⓒ、Ⓓの方法から選ぶことができます。
Ⓐ→Ⓓとなるにつれて高画質になります。



* HDMI（High-Definition Multimedia Interface）
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

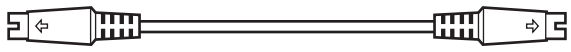
次のページへつづく

ご注意
- VIDEO（VIDEO IN）端子から入力された映像信号は、S映像出力端子、コンポーネント映像出力端子、HDMI出力端子からは出力されません。

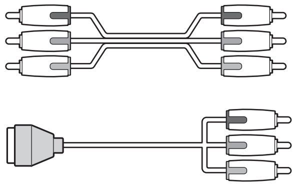
Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ
映像コードを使って、テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO）をつなぎます（14ページ）。



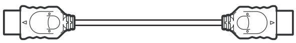
Ⓑ S映像入力端子のあるテレビにつなぐ
S映像コード（別売り）を使って、テレビのS映像入力端子と本機のS映像出力端子（MONITOR OUTのS VIDEO）をつなぎます。



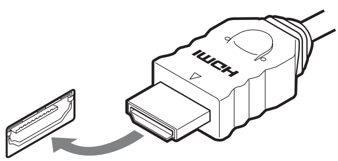
Ⓒ D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子のあるテレビにつなぐ
コンポーネント映像コード（別売り）またはD端子映像コード（別売り）を使って、テレビの映像入力端子と、本機のコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUTのY、PB/CB、PR/CR）をつなぎます。プログレッシブ方式に対応したテレビとつないだときは、本機をプログレッシブ出力に設定して高画質な映像を楽しむことができます（28ページ）。



Ⓓ HDMI/DVI 入力端子のあるテレビにつなぐ
HDMIケーブル（別売り）を使って、テレビのHDMI入力端子と、本機のHDMI出力端子（HDMI OUT）をつなぎます。デジタル信号により高精細映像と音声を楽しむことができます。
テレビにDVI入力端子がある場合、HDMI/DVIコンバーターケーブル（別売り）を使ってテレビとつなぐことはできますが、その場合テレビは音声信号を受け取れません。
また、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に準拠していないDVI対応機器にはつなぐことができません。



ご注意
- HDMIケーブルをつなぐときは、端子の向きが同じか確認してください。



HDMI出力端子のビデオ信号を選ぶには

本機とテレビをHDMIケーブルでつなぐときは、HDMI出力端子から出力される映像信号を選んでください。詳しくは、テレビやプロジェクターなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 FUNCTION＋/ーボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「DVD」を表示させる。

2 VIDEO FORMATボタンを押す。

現在の映像信号が本体の表示窓に表示されます。
VIDEO FORMATボタンを押すたびに、次のように表示されます。

→ 720×480p*
↓
1280×720p*
↓
720×480p*
↓
1920×1080i*

- 「720 × 480p」：[720 × 480p*] の映像信号を出力します。
- 「1280 × 720p」：[1280 × 720p*] の映像信号を出力します。
- 「720 × 480p」：[720 × 480p*] の映像信号を出力します。
- 「1920 × 1080i」：[1920 × 1080i*] の映像信号を出力します。

*iはインターレース、pはプログレッシブの略称です。

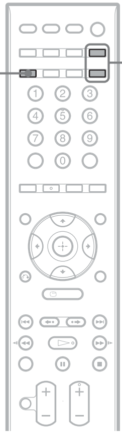
4：3のテレビにつなぐときは

再生するディスクによっては映像がテレビ画面に合わない場合があります。
テレビの画面の種類を変更するには、[画面設定] の [TVタイプ]（85ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

映像をプログレッシブ信号で出力する

お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している場合は、以下の設定で高画質な映像を楽しむことができます。



本機がプログレッシブ信号を出力しているときは、本体の表示窓に「PROGRE」が点灯します。

1 FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「DVD」を表示させる。

2 VIDEO FORMATボタンを押す。

VIDEO FORMATボタンを押すたびに、本体の表示窓に次のように表示されます。（お買い上げ時は、「INTERLACE」（インターレース）に設定されています。）

INTERLACE（インターレース）
↓
PROGRE（プログレッシブ）

■INTERLACE（インターレース）

下記のいずれかの場合に選びます。

－お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応していない。
－本体の映像/S映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO/S VIDEO）につながれている。

■PROGRE（プログレッシブ）

下記の条件を2つとも満たしている場合に選びます。

－ お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。
－ 本体のコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUT）またはHDMI出力端子（HDMI OUT）につながれている。

本機が自動的に映像素材の種類を検出し、適切なプログレッシブ変換方法を選択します。上記の条件を満たしていない場合にこの設定を選ぶと、映像が乱れたり、映像が画面に表示されない場合があります。

ご注意

- 「INTERLACE」に設定しているときに、本機とテレビをHDMIケーブルでつなぐと、「PROGRE」に自動的に切り換わります。

ちょっと一言

- 本機とテレビをHDMIケーブルでつないでいるときは、VIDEO FORMATボタンはHDMI出力の信号選択に使います。詳しくは「HDMI出力端子のビデオ信号を選ぶには」（27ページ）をご覧ください。

DVDの素材と表示方式について

DVDの映像素材には、ビデオ素材とフィルム素材の2種類があります。ビデオ素材は、1秒30フレーム、60フィールドでDVDに記録されたもので、一般的にテレビドラマやテレビアニメーションなどの番組があります。フィルム素材は、1秒24コマでDVDに記録されたもので、映画フィルムの多くがこれにあたります。DVDの中には、ビデオ素材とフィルム素材の両方が記録されているものがあります。

これらの映像をより自然な画質でお楽しみいただくには、映像素材に合わせた方法でプログレッシブ信号に変換する必要があります。

ご注意

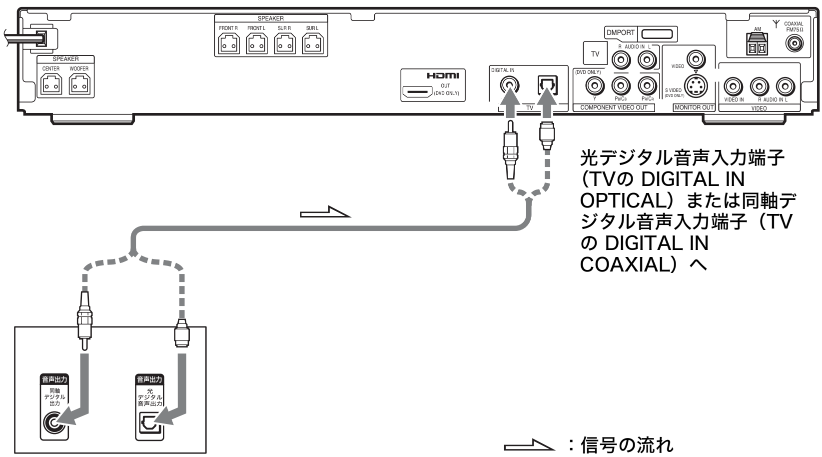
- ビデオ素材のDVDをプログレッシブ信号で再生するとき、コンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUT）より出力される映像の切り換わり部分が表示処理により不自然になる場合があります。また、「PROGRE」設定にしていても、映像/S映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO/S VIDEO）より出力される映像は、インターレース形式で出力されるため乱れません。

デジタル音声出力端子のあるテレビにつなぐ

テレビの音声を本機のスピーカーからより高音質で聞くことができます。

また、AAC（70ページ）を楽しむにはこの接続を行ってください。

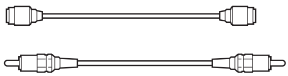
光デジタルコード（別売り）または同軸デジタルコード（別売り）を使って、本機の光デジタル音声入力端子（TVの DIGITAL IN OPTICAL）または同軸デジタル音声入力端子（TVの DIGITAL IN COAXIAL）につなぎます。



テレビ（光デジタル音声出力または同軸デジタル音声出力端子があるテレビ）

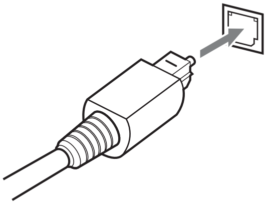
次のページへつづく

光デジタル音声入力端子（TVの DIGITAL IN OPTICAL）につなぐ場合には光デジタルコード（別売り）、同軸デジタル音声入力端子（TVの DIGITAL IN COAXIAL）につなぐ場合には同軸デジタルコード〔別売り）を使います。



ご注意

- TV（AUDIO IN）端子（アナログ接続）とTV （DIGITAL IN OPTICALまたはCOAXIAL）端子（デジタル接続）を両方同時につないだ場合は、デジタル接続が優先されます。
- 光デジタルコードをつなぐときは、下図の向きでカチッと音がするまで差し込んでください。



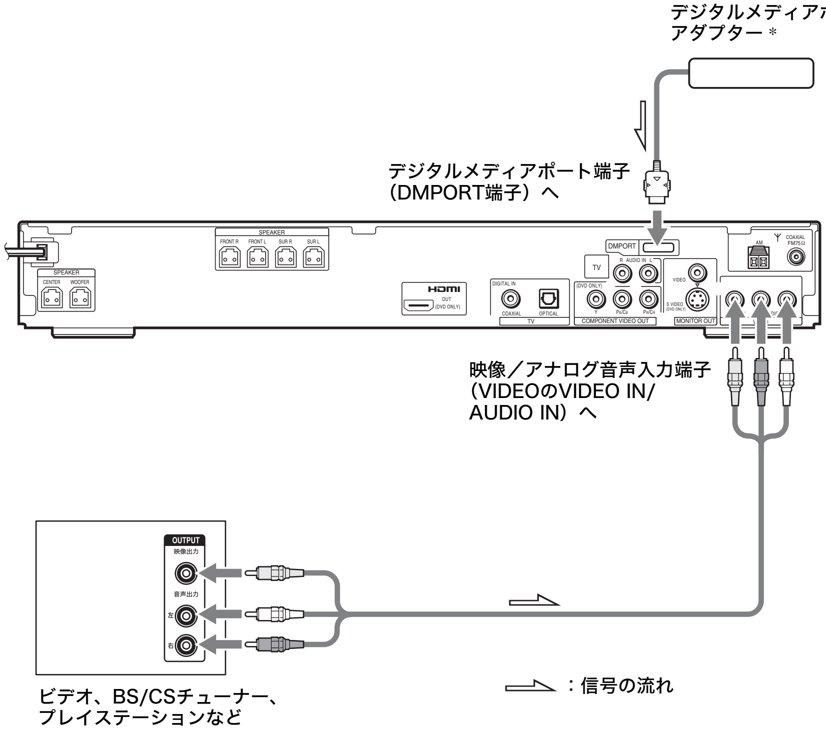
- 光デジタルコードでつなぐときは、お使いのテレビがすべての音声を出力しない場合や、テレビ側で音声出力に関する設定が必要な場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 実際にテレビの音声を聞くには、ファンクションを「TV」に切り換える必要があります。詳しくは34ページをご覧ください。
- 本機のデジタル入力は、BSデジタル放送などのMPEG-2 AACに対応しています。AACを楽しむには「デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ」（70ページ）をご覧ください。

その他の機器をつなぐ

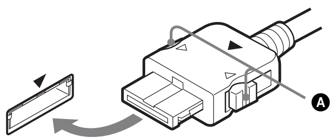
お使いのさまざまな機器を本機につないで、本機のスピーカーから音声を出力することができます。



＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ご注意

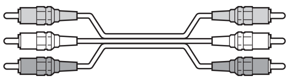
- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターをつないだり、抜いたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼マークの向きを合わせてください。
- 取りはずすときは、Ⓐを押しながらはずしてください。



次のページへつづく

映像／音声出力端子のある機器につなぐ

映像／ステレオ音声コード（別売り）を使ってつなぎます。
映像は、ビデオなどの機器の映像出力端子と、本体の映像入力端子（VIDEOのVIDEO IN）につなぎます。
音声は、ビデオなどの機器の音声出力端子と、本体の音声入力端子（VIDEOのAUDIO IN）につなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。



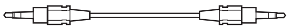
デジタルメディアポートアダプター *をつなぐ

デジタルメディアポートアダプター（別売り）をデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につなぎます。デジタルメディアポートアダプターについて詳しくは、「デジタルメディアポートアダプター *を使う」（73ページ）をご覧ください。

* デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ポータブルオーディオプレイヤーを本機で聞く

ポータブルオーディオプレーヤーなどを、ステレオミニプラグコード（別売り）を使って本体前面の音声入力端子（AUDIO IN）につなぎます。



ちょっと一言

- ポータブルオーディオプレーヤーのMP3音声トラックを聞く場合、音質を高めることができます。FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「AUDIO」を表示させます。ポータブルオーディオプレーヤーをつなぎ、SOUND FIELD＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「A.F.D. STD」を表示させます。キャンセルするには「A.F.D. STD」以外を選んでください。

デジタル音声出力端子のある機器をつなぐ

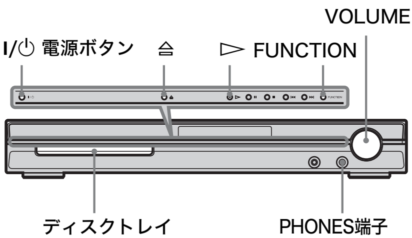
テレビと本機をデジタル接続していないときは、テレビのかわりにDVDレコーダーやBSデジタルチューナーなどのデジタル音声出力端子のある機器とデジタル接続することができます。接続について詳しくは「デジタル音声出力端子のあるテレビにつなぐ」（29ページ）ご覧ください。
また、つないだ機器の映像を出力するには、直接テレビにつないでください。

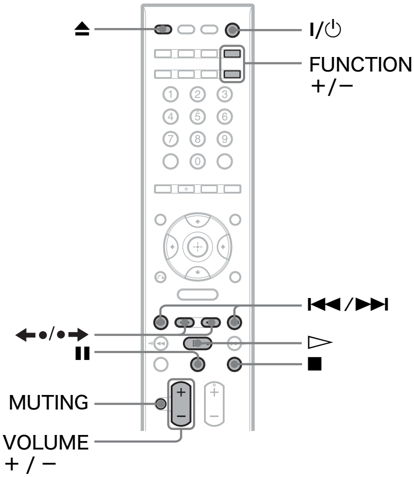
ご注意

- 雑音を防ぐために、プラグはしっかりと差し込んでください。
- 音量を調節できる機器をつなぐときは、つないだ機器の音量を音が歪まない程度に上げてください。

ディスクを再生する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD





再生するDVDビデオ、ビデオCDの種類によっては、操作が違ったり、禁止されている操作があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

1 テレビの電源を入れる。

2 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

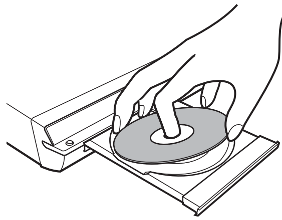
3 I/⏻電源ボタンを押す。

本機の電源が入ります。
ファンクションが「DVD」ではないときは、本体の表示窓に「DVD」と表示されるまでリモコンのFUNCTION＋/－ボタンまたは本体のFUNCTIONボタンを繰り返し押してください。

4 リモコンの⏏または本体の≙を押す。

5 ディスクを入れる。

ディスクをディスクトレイに置き、本体の≙を押してください。



ご注意
- 8 cmディスクをお使いのときは、ディスクトレイの内側の溝に合わせて置いてください。その際、ディスクがずれないようにご注意ください。
- ディスクトレイを手で閉めないでください。故障の原因になります。
- 2枚以上のディスクを入れないでください。

6 ▷ を押す。

再生が始まります。音量を調節してください。
音量レベルがテレビ画面と本体の表示窓に表示されます。

ご注意
- 本機の状態によってはテレビ画面に音量レベルが表示されない場合があります。
- HDMIコントロール機能が［入］のとき（87ページ）、HDMIケーブルで本機とつないでいるテレビが本機と同期して作動する場合があります。詳しくは付属のHDMIコントロールガイドをご覧ください。

次のページへつづく

ちょっと一言
- 本機とテレビをHDMIケーブルでつないでいるときは、HDMIコントロール機能を使って操作を簡単にすることができます。詳しくは付属のHDMIコントロールガイドをご覧ください。

省電力モード（スタンバイモード）にするには

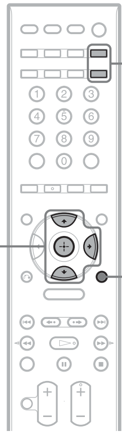
リモコンのI/⏻ボタンまたは本体のI/⏻電源ボタンを押す。省電力モードを解除するときは、もう一度リモコンのI/⏻ボタンまたは本体のI/⏻電源ボタンを押す。

いろいろな操作方法

こんなときは	操作
止める	■を押す
一時停止する	❚❚を押す
一時停止したあと、つづきを再生する	❚❚または▷を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶❙を押す（JPEG画像ファイルは除く）
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	❙◀◀を押す（JPEG画像ファイルは除く）
消音する	MUTINGボタンを押す。消音をキャンセルするには、もう一度MUTINGボタンを押すか、VOLUME+ボタンで音量を上げる
ディスクを取り出す	リモコンの⏏または本体の⏏を押す
少し前のシーンに戻す[1)3)]	再生中に ◀• を押す
少し先のシーンに進める[2)3)]	再生中に •▶ を押す

1) DVDビデオ、DVD-RW、DVD-Rのみ。
2) DVDビデオ、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのみ。
3) ディスクによって操作できない場合があります。

ラジオやつないだ機器の音を楽しむ



本機につないだ機器を選ぶ

本体にビデオなどの機器をつなぐことができます。詳しくはつないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

FUNCTION＋/−ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に再生したいものを表示させる。

FUNCTION＋/−ボタンを押すたびに、ファンクションは以下の順番で切り換わります。
DVD → TUNER FM → TUNER AM → TV → VIDEO → DMPORT → AUDIO → ....

ご注意
- TV（AUDIO IN）端子（アナログ接続）とTV（DIGITAL IN OPTICALまたはCOAXIAL）端子（デジタル接続）を両方同時につないだ場合は、デジタル接続が優先されます。

つないだ機器からの入力レベルを変える

本体の音声入力端子（VIDEOまたはTVのAUDIO IN）や本体前面のAUDIO IN端子につないだ機器の音を聞く場合、つないだ機器によっては音が歪む場合がありますが、故障ではありません。
このような症状を防ぐため、つないだ機器からの入力レベルを変更します。

1 **FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV」、「VIDEO」または「AUDIO」を表示させる。**

2 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

3 **↑/↓で表示窓に「ATTENUATE（アッテネート）」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。**

4 **↑/↓で本体の表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「ATT ON」（オン）
  本機への入力レベルを下げます。音が歪む場合はこの設定にしてください。
- 「ATT OFF」（オフ）
  通常の入力レベルです。他のファンクションに比べて音が小さいとき、この設定にしてください。

5 **⊕（決定）を押す。**

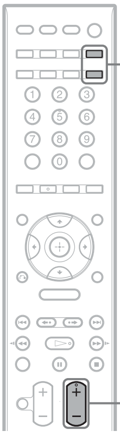
選んだ項目が設定されます。

6 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

システムメニューを終了します。

テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ

テレビやビデオの音声を本機のすべてのスピーカーで楽しむことができます。つなぐ機器に関しては「手順1：スピーカーやテレビをつなぐ」（14ページ）、「テレビをつなぐ（応用編）」（25ページ）、「その他の機器をつなぐ」（31ページ）をご覧ください。



1 **FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV」または「VIDEO」を表示させる。**

2 **テレビやビデオの電源を入れる。**

3 **SOUND FIELD＋/－ボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを表示させる。**

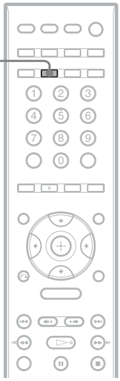
テレビやビデオの音声を6本のスピーカーから出力したいときは、サウンドフィールドの「PRO LOGIC」、「PL II MOVIE」、または「PL II MUSIC」を選んでください。サウンドフィールドについて詳しくは38ページをご覧ください。

ご注意

- ［視聴設定］の［HDMIコントロール］を［入］に設定すると（87ページ）、システムオーディオコントロール機能が作動して、音声がテレビから出力されない場合があります。詳しくは付属のHDMIコントロールガイドをご覧下さい。
- TV（AUDIO IN）端子（アナログ接続）とTV（DIGITAL IN OPTICALまたはCOAXIAL）端子（デジタル接続）を両方同時につないだ場合は、デジタル接続が優先されます。

音響効果を選ぶ

映画や音楽など再生するソースに応じたサウンド効果が楽しめます。



再生中にMOVIE/MUSICボタンを押す。

MOVIE/MUSICボタンを繰り返し押して、本体の表示窓にお好みのモードを点灯させます。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「<u>AUTO</u>」（オートモード）
  再生するディスクに合わせたサウンド効果を自動的に選びます。
- 「MOVIE」（ムービーモード）
  映画を楽しむのに適しています。
- 「MUSIC」（ミュージックモード）
  音楽を楽しむのに適しています。

ちょっと一言

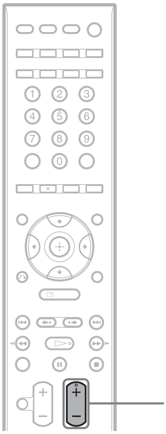
- ムービーモードやミュージックモードを選んだときは、本体の表示窓に「MOVIE」または「MUSIC」が表示されます。どちらも表示されない場合は「AUTO」（オートモード）が選ばれています。

ご注意

- 再生するディスクによっては、最適な効果を自動的に選ぶため、オートモードを選んでいた場合、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、ムービーモードかミュージックモードを選んでください。

サラウンドを楽しむ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。



SOUND FIELD＋/－ボタンを押す。

SOUND FIELD＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に希望するサウンドフィールドを表示させます。

すべてのサウンドフィールド

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT STANDARD	A.F.D. STD
AUTO FORMAT DIRECT MULTI	A.F.D. MULTI
Dolby Pro Logic	PRO LOGIC
Dolby Pro Logic II MOVIE	PLII MOVIE
Dolby Pro Logic II MUSIC	PLII MUSIC
CINEMA STUDIO EX A	C. ST. EX A*
CINEMA STUDIO EX B	C. ST. EX B*
CINEMA STUDIO EX C	C. ST. EX C*
2 CHANNEL STEREO	2CH STEREO
HEADPHONE THEATER	HP THEATER*
HEADPHONE 2 CHANNEL STEREO	HP 2CH

* DCSテクノロジーを使用しています。

入力された音声をそのまま再生する

■ AUTO FORMAT DIRECT STANDARD

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何の音場効果（残響音など）も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。ただし、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合は、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

複数のスピーカーから音声を出力する

■ AUTO FORMAT DIRECT MULTI

ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。

ご注意

- ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。
- 再生するディスクによっては、最適な効果を自動的に選ぶため、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、「A.F.D. STD」を選んでください。

ＣＤなどの2チャンネルソースを5.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic
サラウンド効果を再現するために、2チャンネルの音声信号をドルビープロロジック処理をして5チャンネルに振り分けます。サラウンドチャンネルの音声信号はモノラルになります。

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC
サラウンド効果を再現するために、2チャンネルの音声信号をドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりをもったサラウンド効果を特別なサウンドを加えることなしに実現したものです。

ご注意

- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Dolby Pro Logicや Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- 二ヶ国語放送の場合、Dolby Pro LogicやDolby Pro Logic II MOVIE/MUSICの効果は得られません。

デジタルシネマサウンドを楽しむ

DCS（デジタルシネマサウンド）について

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの提携により、同社のスタジオの音響環境を計測し、ソニー独自の技術であるDSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを融合させて、「デジタルシネマサウンド」は開発されました。「デジタルシネマサウンド」はホームシアターで、映画館の理想的な音場効果を再現します。

■ CINEMA STUDIO EX A
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「ケリー・グラント・シアター」の音響特性を再現します。標準的なモードで、どんな映画にも適しています。

■ CINEMA STUDIO EX B
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「キム・ノヴァク・シアター」の音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX C
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの スコアリングステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

シネマスタジオEXについて

シネマスタジオEX（CINEMA STUDIO EX）は、ドルビーデジタルDVDなどのマルチ形式でエンコードされた映画ソフトを楽しむのに適したサウンドフィールドです。このモードはソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスタジオと同じ音響特性を再現します。
シネマスタジオEXは、以下の3つの要素から成り立っています。

- Virtual Multi Dimension
  実在する1組のサラウンドスピーカーに加えて、視聴者を取り巻くように5組の仮想スピーカーを再現します。
- Screen Depth Matching
  映画館では、スクリーンに映写されている映像の中から音が聞こえてくるように感じます。フロントスピーカーの音をスクリーンに移動させることによって、部屋の中でも同じような感覚を再現します。
- Cinema Studio Reverberation
  映画館に特有の残響効果を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3つの音響効果を実現する総合的なサウンドフィールドです。

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーから直に音は聞こえません。

次のページへつづく

フロントスピーカーとサブウーファーだけを使う

■ 2 CHANNEL STEREO
フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本から音を出します。2チャンネルのソースはサウンドフィールドをバイパスしてそのまま2チャンネルの信号を再生します。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
どんなソースもフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本で再生ができます。

ヘッドホンで楽しむ

■ HEADPHONE THEATER
ヘッドホンを使ってサラウンド音声をお楽しみいただけます。
この機能はDCS（デジタルシネマサウンド）テクノロジーを使用しています。

■ HEADPHONE 2 CHANNEL STEREO
2チャンネルの音声信号をヘッドホンに出力します。2チャンネルのソースはサウンドフィールドをバイパスしてそのまま2チャンネルの信号を出力します。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

サウンド効果を消すには

SOUND FIELD＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に「A.F.D. STD」または「2CH STEREO」を表示させる。

ちょっと一言

- 各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています（サウンドフィールドリンク）。ファンクションを選ぶと、前回そのファンクションで選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えば、サウンドフィールドの「PRO LOGIC」を選んでDVDを聞き、いったんファンクションを変えて、再びDVDに戻ると「PRO LOGIC」のサウンドフィールドで聞くことができます。

見たいところ、聞きたいところを探す

（スキャン/スロー再生/コマ送り）

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところを探したり、スロー再生をすることができます。

ご注意

- DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

早送り再生/早戻し再生をして見たいところ、聞きたいところを探す（スキャン）

（JPEG画像ファイルを除く）

ディスクを再生中に、◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を押します。見たいところや聞きたいところを見つけたら、▷を押して通常のスピードにします。スキャン中に◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。ディスクによって実際の速さは異なります。

再生方向

遅 ――――――――→ 早

×2▶* → 1 ▶▶ → 2 ▶▶ → 3 ▶▶**（3 ▶▶** から ×2▶* に戻る）

＊ DVDビデオ/CDのみ
＊＊DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ

逆方向

遅 ――――――――→ 早

×2◀* → 1 ◀◀ → 2 ◀◀ → 3 ◀◀**（3 ◀◀** から ×2◀* に戻る）

＊ DVDビデオのみ
＊＊DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ

スロー再生をする

（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、ビデオCDのみ）

本機が一時停止中に◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。スロー再生をしているとき、ボタンを押すたびにスロー再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

2 ▮▶ ←→ 1 ▮▶

逆方向（DVDビデオのみ）

2 ◀▮ ←→ 1 ◀▮

コマ送りで見る

（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、ビデオCDのみ）

一時停止中に再生方向は•➡、逆方向（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）は⬅•を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。

ご注意

- DVD-R（VRモード）、DVD-RW（VRモード）では、静止画はサーチできません。

タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

タイトル/チャプターでDVDを、トラック/インデックス/シーンでCD、ビデオCD、データCD、データDVDを検索できます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ）。

1 DISPLAYボタンを押す（データCDまたはデータDVDのJPEG画像ファイルを再生しているときはDISPLAYボタンを2回押す）。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で検索項目を選ぶ。

ディスクによって表示される項目が変わります。

［タイトル］、［シーン］、［トラック］

［チャプター］、［インデックス］

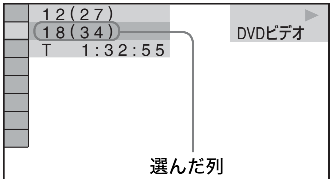
［時間/テキスト］
タイムコードを入力して場面を探すときは、［時間/テキスト］を選んでください。

［トラック］

［アルバム］

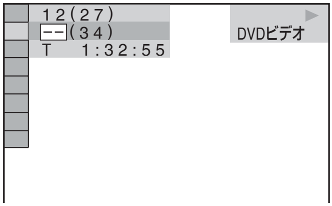
［ファイル］

例）［チャプター］を選んだとき
［**（**）］が選ばれます（**は任意の数字）。カッコ内の数字はタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーン、アルバムまたはファイルの総数です。



3 （決定）を押す。

［**（**）］が［--（**）］に変わります。



4 ↑/↓または数字ボタンでタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンなどの番号を入力する。

間違えたときは
CLEARボタンを押して、入力しなおす。

5 （決定）を押す。

選んだ番号のチャプターやインデックスなどの再生が始まります。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ）（DVDビデオ/DVD-VRモードのみ）

1 手順2で［時間/テキスト］を選ぶ。
［T**:**:**］（現在のタイトルの経過時間）が選ばれます。

2 ⊕（決定）を押す。
［T**:**:**］が［T--:--:--］に変わります。

3 数字ボタンでタイムコードを入力し、⊕（決定）を押す。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、［2:10:20］と入力します。

ちょっと一言

- テレビにコントロールメニューが表示されていなくても、数字ボタンと⊕（決定）を押してチャプター（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW）やトラック（ビデオCD、CD）を探すことができます。

ご注意

- DVD+R／DVD+RWではタイムコードを使って検索することはできません。

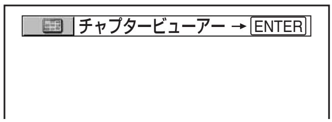
シーンで検索する
（ピクチャーナビ）

DVD-V　VIDEO CD

画面を9分割して、見たいシーンをすばやく検索できます。

1 ディスクの再生中にPICTURE NAVIボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。

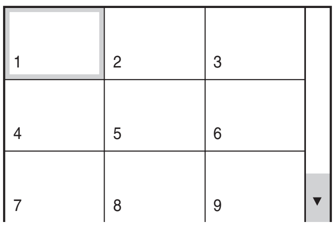


2 PICTURE NAVIボタンを繰り返し押して、項目を選ぶ。

- ［タイトルビューアー］（DVDビデオのみ）
- ［チャプタービューアー］（DVDビデオのみ）
- ［トラックビューアー］（ビデオCD、スーパー VCDのみ）

3 ⊕（決定）を押す。

次のようにそれぞれのタイトル、チャプター、またはトラックの最初のシーンが表示されます。



次のページへつづく

4 ←/↑/↓/→でタイトル、チャプター、またはトラックを選び、⊕（決定）を押す。

選んだシーンから再生が始まります。

設定の途中で通常の再生に戻るには

RETURNボタンを押す。

ご注意

- ディスクによっては、操作を禁止している場合があります。

再生を止めたところから再生する

（リジューム再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

■を押し再生を止めたとき、本体の表示窓に「RESUME」が表示され、本機は再生を止めたところを記憶します。ディスクを取り出さないかぎり、I/⏻ボタンを押して本機をスタンバイモードにしてもリジューム再生できます。

1 ディスクの再生中に■を押して、再生を止める。

本体の表示窓に「RESUME」と表示されます。「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ご注意

- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消え、リジューム再生できません。
  - ディスクを取り出したとき
  - 本機がスタンバイモードになったとき（データCD、データDVDのみ）
  - 設定画面で設定を変更したとき
  - ［視聴制限］の［レベル］設定を変えたとき
  - FUNCTION＋/－ボタンを押してファンクションを変えたとき
  - 電源コードをコンセントから抜いたとき
- VRモードのDVD-R/DVD-RW、ビデオCD、CD、データCD、データDVDは現在再生しているディスクのみ再生を止めたところを記録します。
- プログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- ディスクによってはリジューム再生できません。

ちょっと一言

- ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、▷を押します。

複数枚のディスクをリジューム再生する（つづき再生機能）

（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

本機は、途中で再生をやめたディスクを取り出し、次にまた再生するときに続きから再生することができます。
この機能を使うには、［視聴設定］の［つづき再生機能］を［入］にしてください。詳しくは「［つづき再生機能］（DVDビデオ、ビデオCDのみ）」（88ページ）をご覧ください。

ご注意

- ［視聴設定］の［つづき再生機能］が［切］の場合（88ページ）、FUNCTION＋/－ボタンを押してファンクションを変えたときは再生を止めたところの記録は消えます。

好きな順に再生する

（プログラム再生）

VIDEO CD　CD

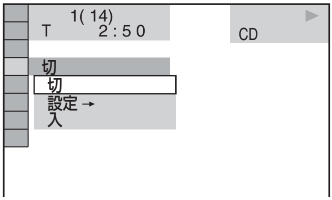
ディスクの中のトラックを選んで好きな順に再生できます。最大99のトラックを、再生したい順にプログラムできます。

1　DISPLAYボタンを押す。

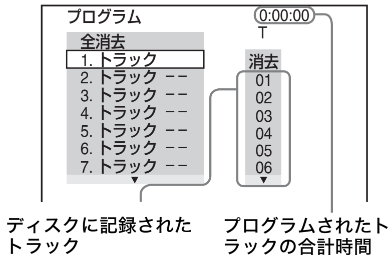
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で ［プログラム］を選び、（決定）を押す。

［プログラム］の項目が表示されます。



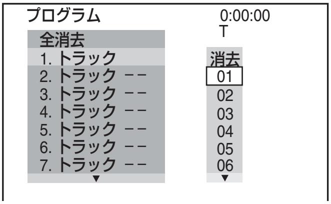
3　↑/↓で［設定→］を選び、（決定）を押す。



次のページへつづく

4 →を押す。

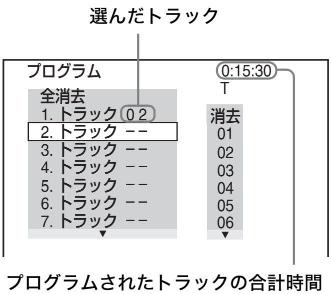
カーソルがトラックの列［T］（例では［01］）に移動します。



5 プログラムしたいトラックを選ぶ。

例えば、トラック［02］を選びます。

↑/↓で［T］の下にある［02］を選び、⊕（決定）を押します。



6 続けて再生するトラックを設定したいときは、手順4、5を繰り返す。

プログラムしたトラックは、選んだ順に表示されます。

7 ▷を押してプログラム再生を始める。

プログラム再生が始まります。プログラム再生が終わったとき、▷を押すと同じプログラムを再生します。

通常の再生に戻るには

手順4〜6以外でCLEARボタンを押すか、または手順3で「切」を選ぶ。同じプログラムを再生したいときは、手順3で［入］を選んだ後、⊕（決定）を押す。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し DISPLAYボタンを押す。

プログラムした内容を変えるには

1 「好きな順に再生する（プログラム再生）」の手順1から3を行う。
2 ↑/↓で変えたい、またはキャンセルしたいトラックナンバーを選ぶ。プログラムしたトラックを消去したい場合は、CLEARボタンを押す。
3 新しいプログラムを設定するには手順5を行う。プログラムをキャンセルするには［消去］を選び、⊕（決定）を押す。

プログラムしたすべての内容をキャンセルするには

1 「好きな順に再生する（プログラム再生）」の手順1から3を行う。
2 ↑ で［全消去］を選ぶ。
3 ⊕（決定）を押す。

順不同に再生する
（シャッフル再生）

VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

ディスク上に記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。

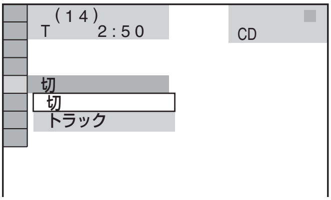
ご注意
- MP3再生中は同じ曲が続けて再生されることもあります。

1　ディスクの再生中にDISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で［シャッフル］を選び、⊕（決定）を押す。

［シャッフル］の項目が表示されます。



3　↑/↓でシャッフル再生したい項目を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

■ビデオCD、またはCDを再生しているとき
- ［切］：シャッフル再生をオフにします。
- ［トラック］：ディスクのトラックをシャッフル再生します。

■プログラム再生を使っているとき
- ［切］：シャッフル再生をオフにします。
- ［入］：プログラム再生の中でシャッフル再生されます。

■データCD、またはデータDVDを再生しているとき
- ［切］：シャッフル再生をオフにします。
- ［入（MP3）］：アルバム再生の中でMP3音声トラックがシャッフル再生されます。アルバムが選択されていない場合、最初のアルバムがシャッフル再生されます。

ご注意
- すでに再生された曲もシャッフル再生されます。

4　⊕（決定）を押す。

シャッフル再生が始まります。

通常の再生に戻るには
CLEARボタンを押すか、または手順3で「切」を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには
コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返しDISPLAYボタンを押す。

ご注意
- シャッフル再生は、PBC再生のビデオCDおよびスーパー VCDでは使用できません。

繰り返し再生する

（リピート再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

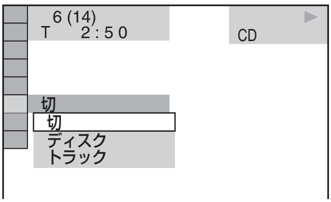
ディスクのすべて、または1つのタイトル/チャプター/トラック/アルバムを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

1　ディスクの再生中に DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で［リピート］を選び、（決定）を押す。

［リピート］の項目が表示されます。



3　↑/↓でリピート再生したい種類を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

■DVDビデオまたはDVD-VRのとき
- ［切］：リピート再生をオフにします。
- ［ディスク］：ディスクのすべてのタイトルを繰り返し再生します。
- ［タイトル］：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- ［チャプター］：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

■ビデオCD、またはCDのとき
- ［切］：リピート再生をオフにします。
- ［ディスク］：ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。
- ［トラック］：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■データCD、またはデータDVDのとき
- ［切］：リピート再生をオフにします。
- ［ディスク］：ディスクのすべてのアルバムを繰り返し再生します。
- ［アルバム］：再生中のアルバムを繰り返し再生します。
- ［トラック］（MP3音声トラックのみ）：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■シャッフル、またはプログラム再生を使っているとき
- ［切］：リピート再生をオフにします。
- ［入］：シャッフル、またはプログラム再生の中で繰り返し再生します。

4　（決定）を押す。

選んだ種類でリピート再生になります。

通常の再生に戻るには

CLEARボタンを押すか、または手順3で「切」を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し DISPLAYボタンを押す。

ご注意

- リピート再生は、PBC再生のビデオCDおよびスーパーVCDでは使用できません。
- MP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルを含むデータCDまたはデータDVDをリピート再生中、再生経過時間の表示が同じでない場合、音声が映像と一致しないこともあります。
- ［音声映像選択モード］で［映像（JPEG）］を選んでいるとき（60ページ）は、［トラック］を選択できません。

DVDに記録されているメニューを使う

DVD-V

複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、DVD TOP MENUボタンで好きなタイトルを選べます。
ディスクの内容をメニューで選択できるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをDVD MENUボタンで選べます。

1 DVD TOP MENUボタンまたはDVD MENUボタンを押す。

ディスクに記録されたメニューがテレビに表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

2 再生または変更したい項目を←/↑/↓/→または数字ボタンで選ぶ。

3 ⊕（決定）を押す。

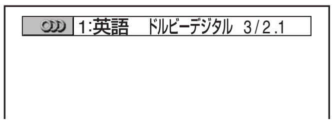
音声を切り換える

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

DVDビデオの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなDVDビデオでは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD、ビデオCD、MP3音声トラック再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。

1 ディスクの再生中にAUDIOボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。
DVDビデオの場合



2 AUDIOボタンを繰り返し押して、お好みの音声を選ぶ。

■DVDビデオのとき
選べる言語はDVDビデオによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（105ページ）を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、音声記録方式（音声チャンネル数など）が異なります。

■DVD-VRのとき
ディスクに記録されている音声トラックの種類が表示されます。

次のページへつづく

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
例：

- ［1:主］：主音声
- ［1:副］：副音声
- ［1:主+副］：主音声+副音声
- ［2:主］
- ［2:副］
- ［2:主+副］

ご注意

- ディスクに１つの音声しか記録されていないときは、［2:主］、［2:副］や［2:主+副］は表示されません。

■ ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）のとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［ステレオ］：通常のステレオ再生
- ［1/L］：左チャンネルの音（モノラル）
- ［2/R］：右チャンネルの音（モノラル）

■ スーパー VCDのとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［1：ステレオ］：音声トラック１のステレオ再生
- ［1：1/L］：音声トラック1の左チャンネルの音（モノラル）
- ［1：2/R］：音声トラック１の右チャンネルの音（モノラル）
- ［2：ステレオ］：音声トラック2のステレオ再生
- ［2：1/L］：音声トラック2の左チャンネルの音（モノラル）
- ［2：2/R］：音声トラック2の右チャンネルの音（モノラル）

ご注意

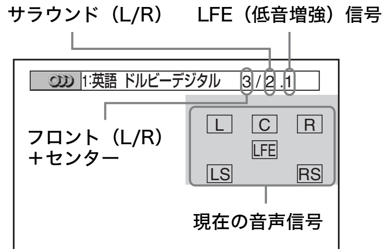
- 音声トラック2が記録されていないスーパー VCDでは［2：ステレオ］、［2：1/L］、または［2：2/R］を選ぶと音が出ません。

音声信号の種類を調べるには（DVDビデオのみ）

ディスクの再生中にAUDIOボタンを繰り返し押すと、テレビ画面に現在の音声信号の種類（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）が表示されます。

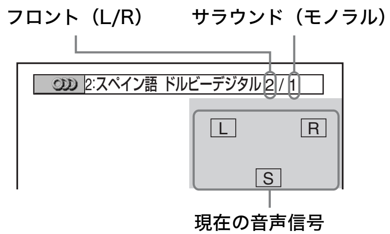
例：

ドルビーデジタル5.1chの場合



例：

ドルビーデジタル3chの場合



音声信号について

ディスクに記録されている音声信号は次のような音声チャンネルを持っています。チャンネルの音がそれぞれのスピーカーから出ます。
例：

- フロント（L）
- フロント（R）
- センター
- サラウンド（L）
- サラウンド（R）
- サラウンド（モノラル）：ドルビーサラウンドサウンド処理信号、またはドルビーデジタルサウンドモノラル音声信号
- LFE（低音増強）信号

DVD-R/DVD-RWの［オリジナル］または［プレイリスト］を選んで再生する

DVD-VR

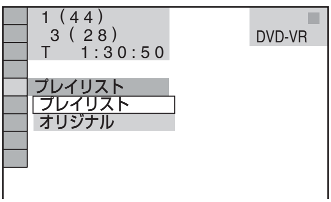
VRモードのDVD-R、またはDVD-RWの中には、2種類の再生方法を選べる場合があります。ディスクに実際に記録される［オリジナル］のタイトルと、DVDレコーダー等で編集して作成される［プレイリスト］という2種類のタイトルがあります。いずれかを選んで再生できます。

1　ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で ［オリジナル/プレイリスト］を選び、⊕（決定）を押す。

［オリジナル/プレイリスト］の項目が表示されます。



3　↑/↓で項目を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［<u>プレイリスト</u>］：オリジナルをもとに編集して作られたタイトルを再生します。
- ［オリジナル］：記録された元のタイトルを再生します。

4　⊕（決定）を押す。

ディスクの情報を見る

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

本体の表示窓で経過時間や残り時間を見る

本体の表示窓で、残り時間や、DVDの総タイトル数、ビデオCD、CDまたはMP3音声トラックなどの情報を見ることができます（109ページ）。

DISPLAYボタンを押す。

ディスクの再生中に、DISPLAYボタンを押すたびに、本体の表示窓は①→②→…→①→…のように切り換わります。
数秒後に表示窓の表示が消える項目もあります。

DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

① 現在のタイトル番号と経過時間
② 現在のタイトルの残り時間
③ 現在のチャプター番号と経過時間
④ 現在のチャプターの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のタイトル番号とチャプター番号

ビデオCD（PBC再生中以外）またはCD再生のとき

① 現在のトラックの経過時間
② 現在のトラックの残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のトラック番号とインデックス*番号

* ビデオCDのみ。

■データCD（MP3音声トラック）、またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② トラックの名前（ファイル名）

ちょっと一言

- ビデオCDをPBC再生しているときは、経過時間が表示されます。

ご注意

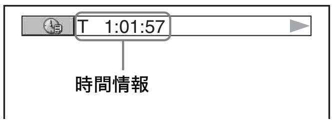
- 本機で表示されるDVDやCDのテキストはディスクの名前のみになります。
- MP3音声トラックの名前を表示できないときは、本体の表示窓に「*」が表示されます。
- テキストによっては、ディスクやトラックの名前が表示されない場合があります。
- MP3音声トラックの経過時間は正確に表示されない場合があります。

テレビで経過時間や残り時間を見る

現在のタイトル、チャプター、トラックの経過時間や残り時間、ディスクの経過時間、残り時間を見ることができます。

1 ディスクの再生中にDISPLAYボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。



2 DISPLAYボタンを繰り返し押して、時間情報を切り換える。

ディスクの種類によって、時間情報の表示が切り換わります。

■ DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

- T　**:**:**（時:分:秒）
  現在のタイトルの経過時間
- T−**:**:**
  現在のタイトルの残り時間
- C　**:**:**
  現在のチャプターの経過時間
- C−**:**:**
  現在のチャプターの残り時間

■ ビデオCD（PBC再生）再生のとき

- **:**（分:秒）
  現在のシーンの経過時間

■ ビデオCD（PBC再生以外）、またはCD再生のとき

- T　**:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間
- T−**:**
  現在のトラックの残り時間
- D　**:**
  現在のディスクの経過時間
- D−**:**
  現在のディスクの残り時間

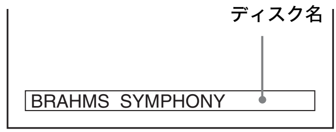
■ データCD（MP3音声トラック）、またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

- T　**:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間

テレビでディスクのテキスト情報を見る

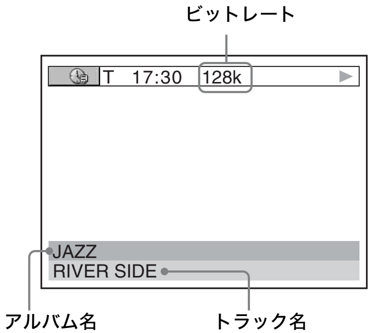
DVDやCDのテキスト情報を見る

「テレビで経過時間や残り時間を見る」（52ページ）の手順2でDISPLAYボタンを繰り返し押して、DVD、CDに記録されたディスク名をテレビに表示します。
ディスク名を変更することはできません。もしディスク名が記録されていないときは、テレビに「NO TEXT」と表示されます。



データCDやデータDVD（MP3音声トラック）のテキスト情報を見る

データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生中にDISPLAYボタンを押すと、テレビにアルバム名やトラック名、音声のビットレート（1秒あたりのデータ量）を表示できます。



ご注意

- 再生されているディスクの種類によっては、限られた文字数までしか表示されない場合があります。また、ディスクによってはすべての文字が表示されない場合があります。

次のページへつづく

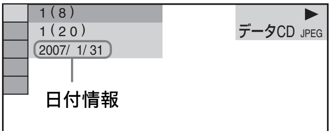
テレビで日付情報を見る

（JPEG画像ファイルのみ）

Exif*タグ情報が記録されているJPEG画像ファイルを再生しているときに、日付情報をテレビで見ることができます。

ディスクの再生中に DISPLAYボタンを2回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。



* Exchangeable Image File Formatは電子情報技術産業協会（JEITA）が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

ちょっと一言

- 日付情報は［年、月、日］の順で表示されます。

アングルを切り換える

DVD-V

複数のアングル（マルチアングル）がディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。

ディスクの再生中にANGLEボタンを押す。

ANGLEボタンを押すたびに、アングルが変わります。

ご注意

- ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する

DVD-V　DVD-VR

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語（マルチランゲージ）で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えることができます。

ディスクの再生中にSUBTITLEボタンを押す。

SUBTITLEボタンを押すたびに、字幕の言語が変わります。

ご注意

- ディスクによっては複数の言語で字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

音声と映像のずれを調節する

(A/V SYNC)

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD

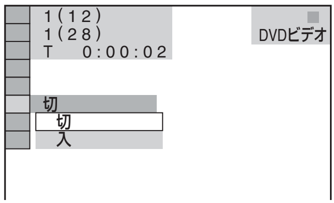
つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。

1　DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓ で[A/V SYNC]を選び、(決定）を押す。

［A/V SYNC］の項目が表示されます。



3　↑/↓で項目を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「切」：調節しない。
- 「入」：音声と映像のずれを調節する。

ご注意

- 入力信号によっては、この機能が使えない場合があります。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

DATA-CD　DATA DVD

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルとは

MP3音声トラックはISO/IEC MPEG準拠の音声圧縮技術で記録された音声データです。JPEG画像ファイルは画像圧縮技術で記録された画像データです。

本機で再生できるディスク

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）やデータDVD（DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-ROM）に記録されているMP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声トラックまたはJPEG画像ファイルを再生できます。

データCDはISO9660のレベル1/レベル2、それらの拡張フォーマット/Joliet、データDVDはUDF（Universal Disk Format）準拠で記録されたものが再生可能です。

記録方式について詳しくはCD-R/CD-RWドライブ、DVD-R/DVD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

マルチセッションディスクについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。

最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

ご注意

- 本機では、パケットライト方式で作成されたデータCDやデータDVDを再生できないことがあります。

本機で再生できるMP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

本機では次のMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。

- 拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）のデータ
- DCF*画像ファイルフォーマットに適合したデータ

* JEITA（電子情報技術産業協会）が制定した、デジタルカメラ用画像フォーマット。

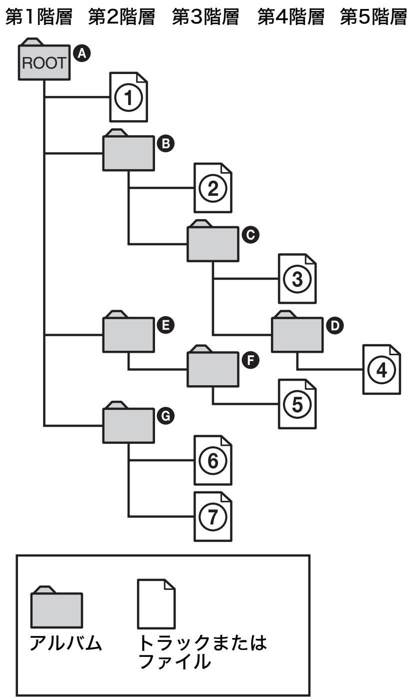
ご注意

- 本機は拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）であれば、MP3音声トラックやJPEG画像ファイルのデータではなくても再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- 本機はMP3PROで記録された音声には対応していません。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生する順番について

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルは次の順番で再生します。

■ ディスク内の構造について



データCD、またはデータDVDを入れて▷を押すと、図の①から⑦の順に数字のつけられたトラック（またはファイル）を再生します。選択されているアルバムの中のサブアルバム（トラック）は同じ階層の中にある他のアルバムより優先されます（例：Ⓒは Ⓓを含んでいるので、④は⑤よりも前に再生されます）。
DVD MENUボタンを押すと、アルバムの名前リストが表示されます（58ページ）。アルバムの名前は以下の順に並びます（Ⓐ→Ⓑ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓕ→Ⓖ）。トラック（またはファイル）を含まないアルバム（例えばⒺ）は、リストに表示されません。

ちょっと一言

- ディスクにトラックやファイルを記録するときは、あらかじめトラックやファイル名の頭に数字（01、02、03など）を入れておくと、その数字の順番に再生することが出来ます。
- ディスクがたくさんの階層で構成されていると、読み込みに時間がかかります。

ご注意

- データCDやデータDVDを作成したソフトウェアによっては、イラストの順序で再生されないことがあります。
  また、アルバム数が200以上、または各アルバムのトラック数およびファイル数の合計が300以上のときは、イラストの順序で再生されないことがあります。
- 本機はディスクに記録された200番目のアルバムまで認識できます。それ以降のアルバムは再生できない場合があります。
- 次のアルバムに進むときや、他のアルバムに移動するときは再生するまで時間がかかる場合があります。
- JPEG画像ファイルの種類によっては再生できない場合があります。

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生する

DATA-CD　DATA DVD

MP3音声トラックまたはアルバムを選ぶ

1　データCD、またはデータDVDを本機に入れる。

テレビにアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。

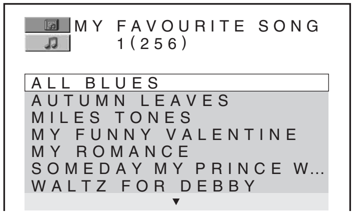


アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

2　↑/↓で再生したいアルバムを選ぶ。

■アルバムを再生するには
▷を押して選んだアルバムを再生する。

■トラックを再生するには
⊕（決定）を押す。
テレビに、選んだアルバムの中のトラックのリストが表示されます。



↑/↓で再生したいトラックを選び、⊕（決定）を押す。
選んだトラックを再生します。

再生を止めるには

■を押す。

次または前のMP3音声トラックを再生するには

再生中に▶▶|または|◀◀を押す。
再生中のアルバムの最後のトラックで▶▶|を押すと、次のアルバムの最初のトラックを選べます。
|◀◀で前のアルバムのトラックに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

前の画面表示に戻るには

↩ RETURNを押す。

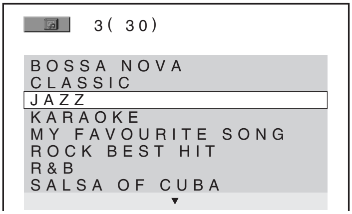
画面表示を消すには

DVD MENUボタンを押す。

JPEG画像ファイルまたはアルバムを選ぶ

1 データCDまたはデータDVDを本機に入れる。

テレビにアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。

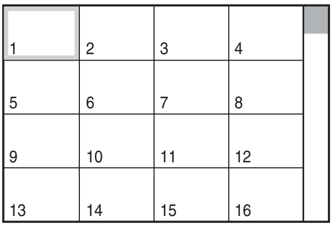


アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

2 ↑/↓で再生したいアルバムを選ぶ。

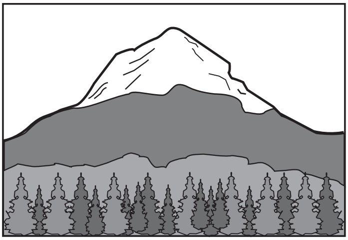
■ アルバムを再生するには
▷を押して選んだアルバムを再生する。

■ JPEG画像ファイルを表示するには
PICTURE NAVIボタンを押す。
テレビに、選んだアルバムの中の画像が16コマのスクリーンで表示されます。



ちょっと一言
- スクロールボックスがスクリーン右側に表示されます。ほかの画像を表示するには最下段のコマを選び↓を押します。戻るには最上段のコマを選び↑を押します。

3 ←/↑/↓/→ で表示したい画像を選び、⊕（決定）を押す。



次または前のJPEG画像ファイルを表示するには

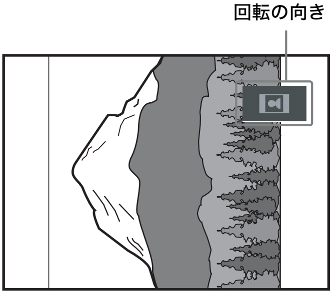
再生中に → または ← を押す。
再生中のアルバムの最後のファイルで → を押すと、次のアルバムの最初のファイルを選べます。
← で前のアルバムのファイルに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

JPEG画像ファイルを回転するには

JPEG画像ファイルが画面に表示されているときに、画像を90度回転させることができます。
画像が表示されているときに↑/↓ を押してください。↑ を押すたびに、画像は反時計回りに90度ずつ回転します。

次のページへつづく

↑ を1度押したときの例：



通常の画面に戻るにはCLEARボタンを押します。

再生を止めるには

■を押す。

JPEG画像ファイルを音声つきでスライドショーとして楽しむ

DATA-CD DATA DVD

JPEG画像を音声つきでスライドショー＊として再生するには、データCDまたはデータDVDの同じアルバムの中にMP3音声トラックとJPEG画像ファイルをあらかじめ一緒に入れてください。再生時に以下の［音声映像選択モード］の［自動］設定を選んでください。

＊ スライドショーとは、テレビに複数のJPEG画像ファイルを自動的に切り換えながら表示する機能です。

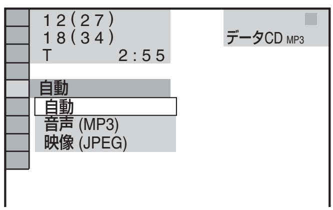
1 データCDまたはデータDVDを本機に入れる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で ［音声映像選択モード］を選び、⊕（決定）を押す。

［音声映像選択モード］の項目が表示されます。



4 ↑/↓で設定を選び、⊕（決定）を押す。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［自動］：同じアルバムの中にあるJPEG画像ファイルとMP3音声トラックをスライドショーとして再生します。
- ［音声（MP3）］：MP3音声トラックのみ続けて再生します。
- ［映像（JPEG）］：JPEG画像ファイルのみスライドショーとして表示します。

5 DVD MENUボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。

6 ↑/↓でアルバムを選び、▷を押す。

本機は選んだアルバムの再生を始めます。

DVD MENUボタンを押してアルバムリストを表示したり消したりすることができます。

ちょっと一言

- ［自動］を選んでいるときは、1枚のアルバムの中で300のMP3音声トラックと300のJPEG画像ファイルを読み込めます。［音声（MP3）］または［映像（JPEG）］を選んでいるときは、１枚のアルバムの中で600のMP3音声トラック、または600のJPEG画像ファイルを読み込めます。設定にかかわらず、最大200アルバムまで読み込めます。

ご注意

- ［音声映像選択モード］にて、MP3音声トラックのみ記録されているディスクを［映像（JPEG）］にしても、またJPEG画像ファイルのみ記録されているディスクの設定を［音声（MP3）］にしても、［音声映像選択モード］は変更されない場合があります。
- ［音声（MP3）］を選んでいるときは、PICTURE NAVIボタンは使えません。
- 大容量のMP３音声トラックとJPEG画像ファイルを同時に再生しようとすると、音飛びする場合があります。ファイルを作るときには、MP3音声トラックのビットレートを128kbps以下に設定されることをおすすめします。それでも音飛びする場合は、JPEG画像ファイルのデータを小さくしてください。

スライドショーの表示間隔を変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

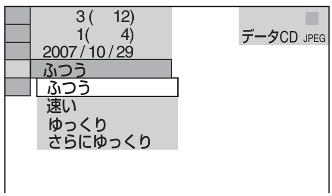
JPEG画像ファイルをスライドショーを使って表示するときに、画像の表示間隔を変えることができます。

1 DISPLAYボタンを２回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で ［スライド送り時間］を選び、⊕（決定）を押す。

［スライド送り時間］の項目が表示されます。



3 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［ふつう］：6〜9秒の表示間隔です。
- ［速い］：［ふつう］よりも表示間隔が短くなります。
- ［ゆっくり］：［ふつう］よりも表示間隔が長くなります。
- ［さらにゆっくり］：［ゆっくり］よりも表示間隔が長くなります。

次のページへつづく

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

ご注意

- JPEG画像ファイルによっては、選んだ表示間隔よりも長く時間がかかる場合があります。特に300万ピクセル以上のプログレッシブJPEG画像ファイルやJPEG画像ファイルを表示する場合に長い時間がかかります。

スライドショーの効果を選ぶ（JPEG画像ファイルのみ）

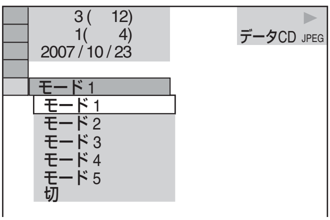
JPEG画像ファイルをスライドショーで表示するときの効果を選べます。

1 DISPLAYボタンを２回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で ［スライド効果］を選び、⊕（決定）を押す。

［スライド効果］の項目が表示されます。



3 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ［<u>モード1</u>］：画像が上から下に向かって表示されます。
- ［モード2］：画像が左から右に向かって表示されます。
- ［モード3］：画像が画面中央から外側に向かって表示されます。
- ［モード4］：ランダムに選ばれたスライド効果が適用されます。
- ［モード5］：次の画像が前の画像に重なって表示されます。
- ［切］：スライド効果を使いません。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う

（PBC再生）

VIDEO CD

PBC（Playback Control）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビに表示される選択用のメニューにしたがってビデオCDの再生を進めていくことです。

1 PBC対応ビデオCDを再生する。

テレビに、選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を数字ボタンで選ぶ。

3 ⊕（決定）を押す。

4 テレビに表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

↶ RETURNボタンを押す。

ご注意

- ディスクによっては手順3で⊕（決定）を押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは▷を押してください。

ちょっと一言

- PBC機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭、または数字ボタンを押して再生したいトラックを選んでから、▷または⊕（決定）を押します。通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

放送局を登録する

（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局、合わせて30局登録できます。
受信を始める前に、音量を最小にしてください。

1 **FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。**

2 **TUNING＋/－ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。**

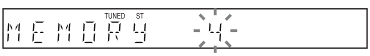
周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。本体の表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

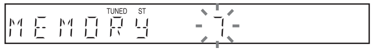
4 **↑/↓で「MEMORY」を本体の表示窓に表示させる。**

5 **⊕（決定）または→を押す。**

プリセット番号が本体の表示窓に表示されます。



6 **↑/↓でプリセット番号を選ぶ。**



ちょっと一言
- 数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶこともできます。

7 **⊕（決定）を押す。**

放送局が登録されます。



8 **手順1～7を繰り返して、他の放送局を登録する。**

9 **SYSTEM MENUボタンを押す。**

システムメニューを終了します。

プリセット番号を変えるには

手順1から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する（プリセット）」で放送局を登録しておいてください。

1 FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 PRESET＋/－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

ちょっと一言

- 数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶこともできます。

3 VOLUME＋/－ボタンを押して、音量を調節する。

ラジオを消すには

I/⏻ボタンを押す。

登録していない放送局を聞くには

手順2で下記の操作を行います。
手動受信は、リモコンのTUNING＋または－を繰り返し押す。
自動受信は、リモコンのTUNING＋または－を押し続ける。自動受信を止めるときはTUNING＋または－を押す。

周波数を知っている放送局を聞くには

手順2で下記の操作を行います。

1 D.TUNINGボタンを押す。
2 数字ボタンを使って、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。
3 ⊕（決定）を押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きを変えてみてください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 SYSTEM MENUボタンを押す。
2 ↑/↓で本体の表示窓に「FM MODE」を表示させてから ⊕（決定）または→を押す。



3 ↑/↓で「MONO」を選ぶ。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
   - 「STEREO」（ステレオ）
     ステレオ受信します。
   - 「MONO」（モノラル）
     モノラル受信します。
4 ⊕（決定）を押す。
選んだ項目が設定されます。
5 SYSTEM MENUボタンを押す。
システムメニューを終了します。

次のページへつづく

登録した放送局に名前を付ける

登録した放送局に名前を付けることができます。これらの名前は、放送局が選択されたときに本体の表示窓に表示されます（「XYZ」など）。
それぞれの登録した局には、ひとつの名前しか登録できません。

1 FUNCTION＋/−ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 PRESET＋/−ボタンを繰り返し押して、名前を付けたい放送局を受信する。

3 SYSTEM MENUボタンを押す。

4 ↑/↓で本体の表示窓に「NAME IN」を表示させる。



5 ⊕（決定）または→を押す。

6 ←/↑/↓/→で名前を付ける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力してしまったら

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。
文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、CLEARボタンを押します。

7 ⊕（決定）を押す。

本体の表示窓に「COMPLETE」が表示され、放送局の名前が登録されます。

8 SYSTEM MENUボタンを押す。

システムメニューを終了します。

ちょっと一言

- DISPLAYボタンを繰り返し押して、放送局の周波数を確認することができます。

本体の表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本体の表示窓に放送局名が表示されているとき、下記の操作で周波数を表示させることができます。

DISPLAYボタンを押す。

DISPLAYボタンを押すたびに、本体の表示窓は次のように切り換わります。

① 放送局名*
② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけていなければ表示されません（66 ページ）。
** 数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

付属のリモコンでテレビを操作する

本機のリモコンでお手持ちのテレビの操作ができます。

ご注意

- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に初期設定に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせなおしてください。

リモコンでテレビの操作をする

リモコンのTV I/⏻ボタンを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（3桁）を続けて入力し、その後、TV I/⏻ボタンをはなす。

メーカー番号が設定されると、TVボタンがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとTVボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやりなおしてください。

メーカー番号について

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものを選んでください。

テレビ

メーカー	メーカー番号
SONY/AIWA	501（初期設定）
DAEWOO	503、506、515
GENERAL ELECTRIC (GE)	503、509、510
GOLDSTAR/LG	503、515、517、568
HITACHI	503、514、515、517、557
JVC/VICTOR	516
MITSUBISHI/MGA	503、527、566、568
NEC	503、527
PANASONIC	509、553、572
PHILIPS	518、557、558
PIONEER	509、525、551
SAMSUNG	515、517、557、566、569、574
SANYO	508、545、567
SHARP	517、535、565
TOSHIBA	535、541、551

次のページへつづく

テレビを操作する

以下のボタンでテレビの操作ができます。

押すボタン	できること
TV I/⏻	テレビの電源を入／切する。
TV INPUT	テレビの入力を切り換える。

以下のボタンは、リモコンがテレビモードになっているときのみ使うことができます。最初にTVボタンを押して、TVボタンが点灯している状態（テレビモード）で、ボタンを押してください。

押すボタン	できること
TV VOL+/−	テレビの音量を調節する。
TV CH+/−	テレビのチャンネルを選ぶ。
数字ボタン、ENTER	テレビのチャンネルを選ぶ。
TOOLS	操作メニューを表示する。
RETURN	一つ前のチャンネルに戻る。
TV MENU	テレビのメニューを表示する。
MUTING	テレビの音声を消音する。
←/↑/↓/→、⊕（決定）	メニューの項目を選ぶ。

ちょっと一言

- テレビの種類によっては以下の操作が可能なものがあります。
  2桁の数字を入力するときには-/--を押したあとに数字を入力します。たとえば、25と入力したいときは-/--，2，5と入力します。
  詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビによっては操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンをテレビモードにしたあと、10秒間リモコンを操作しないとテレビモードは自動的にオフになります。

ボタン1つでDVDを見られるようにする

（シアターシンク機能）

ソニー製テレビをお使いの場合、THEATRE SYNCボタンを1度押すだけで、テレビの電源が入り、本機をDVDファンクションにし、テレビの入力を切り換えることができます。

設定する

テレビの入力（本機をつないだ入力）を登録します。

TV INPUTボタンを押しながら、数字ボタンを使ってテレビの入力を選ぶ。

設定されると、TVボタンがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとTVボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやりなおしてください。

下記の表から、本機をつないでいる入力を選びます。

TV INPUTボタンを押しながら ➡	押す数字ボタン	テレビの入力
	0	選びません（初期設定）
	1	ビデオ1
	2	ビデオ2
	3	ビデオ3
	4	ビデオ4
	5	ビデオ5
	6	ビデオ6
	7	ビデオ7
	8	ビデオ8

TV INPUTボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	テレビの入力
		9	コンポーネント1入力
		CLEAR	コンポーネント2入力
		PICTURE NAVI	コンポーネント3入力
		AUDIO	コンポーネント4入力
		SUBTITLE	HDMI1入力
		ANGLE	HDMI2入力
		VIDEO FORMAT	HDMI3入力
		MOVIE/ MUSIC	HDMI4入力
		DYNAMIC BASS	HDMI5入力

操作する

テレビと本機にリモコンを向けて、THEATRE SYNCボタンを押す。

リモコンから送信中はTVボタンが点滅します。機能しない場合は、下記のようにリモコンから信号を送信する時間を変えてみてください。

信号の送信時間を変えるには

TV CH+ボタン*を押しながら、数字ボタンを使って、送信時間を選ぶ。

設定されると、TVボタンがゆっくり2度点滅します。設定に失敗するとTVボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやりなおしてください。

* SOUND FIELD＋ボタンを代わりに使うこともできます。

下記の表から、送信時間を選びます。

TV CH+ボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	送信時間
		1	0.5（初期設定）
		2	1
		3	1.5
		4	2
		5	3
		6	4
		7	5
		8	6

ご注意

- シアターシンク機能は、ソニー製テレビにのみ機能します（ソニー製テレビでも機能しないモデルもあります）。
- テレビと本機が離れていると、機能しない場合があります。その場合は、テレビと本機を近づけて設置してください。
- TVボタンが点滅している間は、リモコンをテレビ、本機に向けたままにしておいてください。
- リモコンから信号を送信している間は、リモコンをテレビ、本機に向けたままにしておいてください。

デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタルコード（別売り）もしくは同軸デジタルコード（別売り）でつないでください（29ページ）。
また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上が確認された上で、下記の操作を行ってください。

AACの音声を聞く

FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV」を表示させる。

AAC音声信号を認識すると、本体の表示窓に「MPEG-2 AAC」が表示され、AAC音声を聞くことができます。

ご注意

- 14ページの接続で、ステレオ音声コード（別売り）での接続では、AAC音声は楽しめません。

2ヶ国語放送の音声を切り換える

AACが2ヶ国語放送の場合、主音声と副音声を切り換えることができます。

AUDIOボタンを押す。

AUDIOボタンを繰り返し押して、本体の表示窓にお好みの設定を表示させます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「MAIN」（主音声）
  主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）
  副音声のみを再生します。
- 「MAIN＋SUB」（主＋副）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ご注意

- 2ヶ国語放送でない場合にAUDIOボタンを押すと、本体の表示窓に「NOT IN USE」が表示されます。

ちょっと一言

- DVD-R／DVD-RWにVRモードで記録された2ヶ国語放送も、この設定で楽しむことができます。

サウンド効果を変える

低音を強化することができます。

DYNAMIC BASSボタンを押す。

本体の表示窓に「BASS」が点灯し、低域の音量を増幅させます。

サウンド効果を消すには

DYNAMIC BASSボタンをもう一度押します。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本体の電源を切ることができます。
時間は1分または10分間隔で設定することができます。

SLEEPボタンを押す。

SLEEPボタンを押すごとに、設定時間が変わり、本体の表示窓に表示されます。

→ SLEEP 90M（90分）
↓
SLEEP 80M（80分）
↓
⋮
SLEEP 10M（10分）
↓
SLEEP OFF

タイマーがセットされると本体の表示窓に「SLEEP」が点滅します。

設定時間を確認するには

SLEEPボタンを一度押す。

経過時間を変えるには

SLEEPボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更する。

スリープタイマー機能を解除するには

SLEEPボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「SLEEP OFF」を表示させる。

次のページへつづく

システムメニューでスリープタイマーを設定する

1. SYSTEM MENUボタンを押す。
2. ↑/↓で本体の表示窓に「SLEEP」を表示させてから ⊕（決定）または→を押す。
3. ↑/↓で設定時間を選ぶ。
   ↑/↓を押すごとに、設定時間が変わり、本体の表示窓に表示されます。

   SLEEP 90M（90分）
   ↕
   SLEEP 80M（80分）
   ↕
   ⋮
   SLEEP 10M（10分）
   ↕
   SLEEP OFF

   ちょっと一言
   - 数字ボタンで設定時間を選ぶこともできます。その場合は1分間隔で時間を設定することができます。
4. ⊕（決定）を押す。
   選んだ項目が設定され、本体の表示窓に「SLEEP」が点灯します。
5. SYSTEM MENUボタンを押す。
   システムメニューを終了します。

本体表示の明るさを調節する

本体の表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 SYSTEM MENUボタンを押す。

2 ↑/↓で本体の表示窓に「DIMMER（ディマー）」を表示させてから ⊕（決定）または→を押す。

3 ↑/↓で本体の表示窓の明るさを選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「DIMMER OFF」（オフ）
  通常状態です。
- 「DIMMER ON」（オン）
  本体の表示窓の明るさが暗くなります。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

5 SYSTEM MENUボタンを押す。

システムメニューを終了します。

デジタルメディアポートアダプター＊を使う

デジタルメディアポート（DMPORT）アダプターを使って、ポータブルオーディオプレーヤーなどの音楽を楽しむことができます。デジタルメディアポートアダプターをつなぐと、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の音楽を本機で聞くことができます。デジタルメディアポートアダプターの接続について詳しくは「その他の機器をつなぐ」（31ページ）をご覧ください。

＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプター以外の機器をつながないでください。
- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターをつないだり、抜いたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプター（別売り）の種類によっては、映像も出力します。その場合、映像信号の種類に関わらず、本機はコンポジット映像信号のみを出力します（25ページの接続Ⓐをご覧ください）。

デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器を再生する

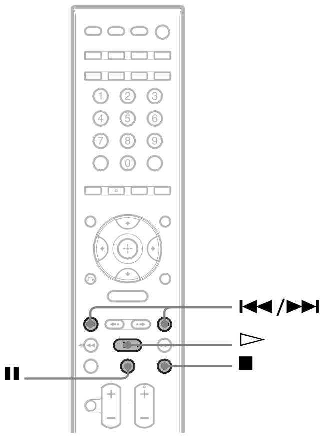
1 **FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「DMPORT」を表示させる。**

2 **つないだ機器の再生を始める。**

つないだ機器の音楽や映像が、本機や本機につないだテレビで再生されます。操作について詳しくは、デジタルメディアポートアダプター（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- デジタルメディアポートアダプターにつないだポータブルオーディオプレーヤーなどのMP3音声トラックや、その他の圧縮されたソースの音質を高めることができます。SOUND FIELD＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に「A.F.D. STD」を表示させてください。キャンセルするには「A.F.D. STD」以外を選んでください。
- デジタルメディアポートアダプター（別売り）の種類によっては、本機のリモコンや本体のボタンを使って、つながれた機器の操作をすることができます。以下のイラストは操作できるボタンの例です。



本体のボタンを動作しないようにする

（チャイルドロック機能）

子供のいたずらなどによる誤動作をふせぐため、本体のボタン（I/⏻以外のボタン）を動作しないようにすることができます。リモコンでの操作はこの設定に関わらず、通常どおり行うことができます。

ご注意

- チャイルドロック機能がオンのときに本体のボタンを押すと、本体の表示窓に「CHILD LOCK」が表示されます。

1 SYSTEM MENUボタンを押す。

2 ↑/↓で本体の表示窓に「CHILD LOCK」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。

3 ↑/↓で本体の表示窓にお好みの設定を表示させる。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「OFF」（オフ）
  チャイルドロック機能がオフになります。
- 「ON」（オン）
  チャイルドロック機能がオンになり、本体の表示窓に「O━π」が点灯します。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

5 SYSTEM MENUボタンを押す。

システムメニューを終了します。

ちょっと一言

- 本体の■を5秒以上押してチャイルドロック機能をオンにすることもできます（本体の表示窓に「O━π」が点灯します)。オフにするには「O━π」が消灯するまで本体の■を5秒以上押します。

ディスクの再生を制限する

（カスタム視聴制限、視聴制限）

DVD-V　VIDEO CD　CD

本機には、ディスクの再生を制限する次の2種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴制限
  視聴制限つきDVDビデオの再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。

カスタム視聴制限―設定する

暗証番号を使って、40枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。41枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1　設定したいディスクを入れる。

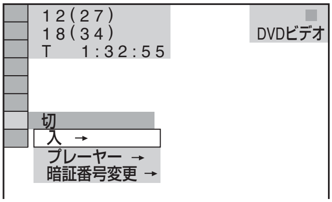
ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2　停止中に DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3　↑/↓で [視聴制限] を選び、⊕（決定）を押す。

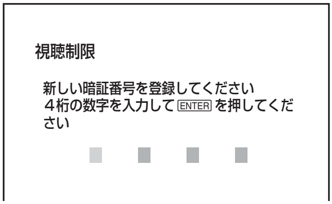
［視聴制限］の項目が表示されます。



4　↑/↓で［入→］を選び、⊕（決定）を押す。

■暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

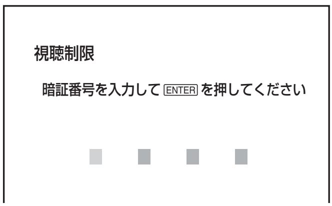


数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押します。

暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。



次のページへつづく

5 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

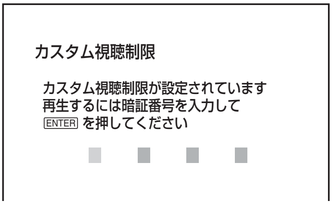
テレビに、［カスタム視聴制限を設定しました］と表示され、コントロールメニュー画面に戻ります。

カスタム視聴制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限—設定する」の手順1から3までを行う。
2 ↑/↓ で［切 →］を選び、⊕（決定）を押す。
3 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
テレビに［キャンセルされました］と表示され、コントロール画面に戻ります。

カスタム視聴制限を設定したディスクを再生するには

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
カスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生できる状態になります。

ちょっと一言

- 暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限の画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力し、⊕（決定）を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴制限—設定する

（DVDビデオのみ）

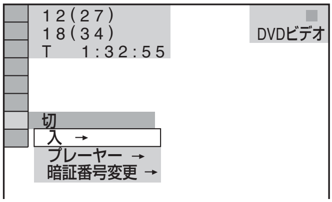
DVDビデオの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

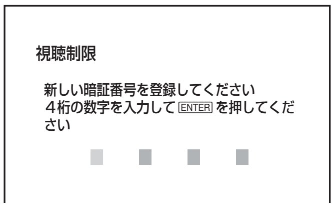
2 ↑/↓ で［視聴制限］を選び、⊕（決定）を押す。

［視聴制限］の項目が表示されます。



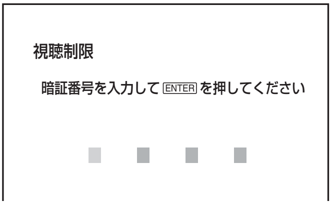
3 ↑/↓で［プレーヤー →］を選び、⊕（決定）を押す。

■ 暗証番号が登録されていないとき
暗証番号登録の画面が表示されます。



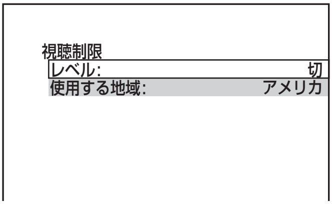
数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号入力の画面が出ます。



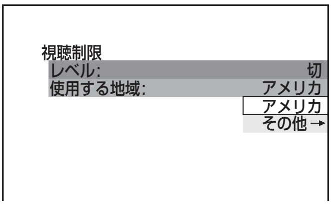
4 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

視聴制限のレベル設定の画面が表示されます。



5 ↑/↓で［使用する地域］を選び、⊕（決定）を押す。

［使用する地域］の項目が表示されます。

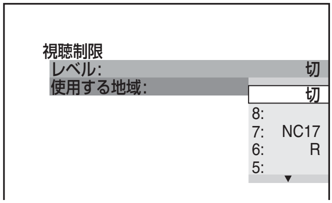


6 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、⊕（決定）を押す。

［その他→］を選んだときは、106ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

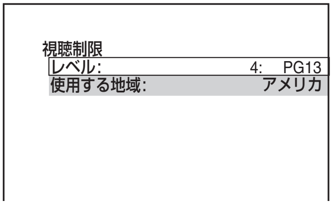
7 ↑/↓で［レベル］を選び、⊕（決定）を押す。

［レベル］の選択項目が表示されます。



8 ↑/↓で視聴制限レベルを選び、⊕（決定）を押す。

視聴制限の設定が終了します。



レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するには

手順8で［レベル］を［切］にする。

視聴制限を設定したディスクを再生するには

1 ディスクを入れて、▷を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生が始まります。

次のページへつづく

ちょっと一言

- 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「カスタム視聴制限—設定する」の手順1〜3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力し、⊕（決定）を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を登録する案内が表示されます。
  新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷ を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

ご注意

- 視聴制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
  つづき再生機能（45ページ）が解除されると、設定した元のレベルに戻ります。

暗証番号を変更するには

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で [視聴制限] を選び、⊕（決定）を押す。

［視聴制限］の選択項目が表示されます。

3 ↑/↓で［暗証番号変更→］を選び、⊕（決定）を押す。

暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンを使って４桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

5 数字ボタンを使って新しい４桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

6 確認のために、数字ボタンを使って暗証番号を再度入力し、⊕（決定）を押す。

暗証番号の入力を間違えたときは

⊕（決定）を押す前に←を押して、正しい数字を入力する。

スピーカー設置に合わせて最適なサラウンド環境を設定する

（スピーカー配置）

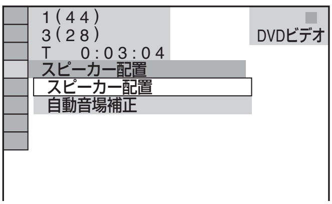
部屋の形によってはいくつかのスピーカーを設置できない場合があります。最適なサラウンドサウンドを楽しむために、あらかじめスピーカーの設置場所を決めることをおすすめします。［スピーカー配置］を行うと、部屋に合ったサラウンド環境を設定できます。
スピーカーの設置位置を変更したときは、［スピーカー配置］を再度設定することをおすすめします。

1 FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

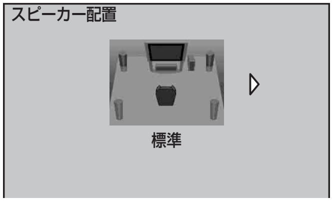
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で ［スピーカー配置/自動音場補正］を選び、⊕（決定）を押す。



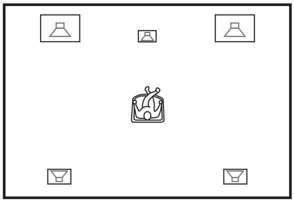
4 ↑/↓ で［スピーカー配置］を選び、⊕（決定）を押す。

［スピーカー配置］の設定画面が表示されます。

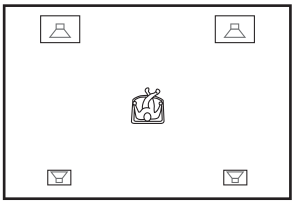


5 ←/→で設定を選ぶ。

- ［標準］：標準的な位置にスピーカーを設置したとき

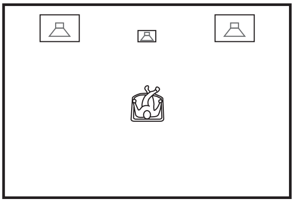


- ［センターなし］：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーのみ設置したとき

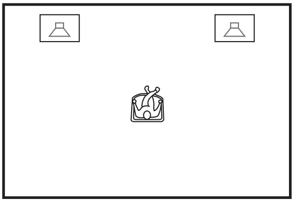


次のページへつづく

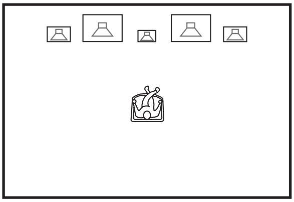
• [サラウンドなし]：センタースピーカーとフロントスピーカーのみ設置したとき



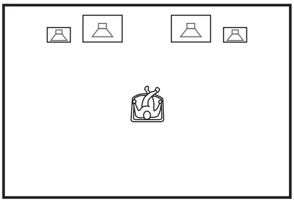
• [フロントのみ]：フロントスピーカーのみ設置したとき



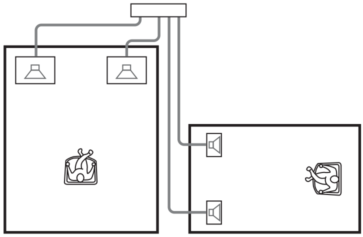
• [全フロントーセンターあり]：すべてのスピーカーを前方に設置したとき



• [全フロントーセンターなし]：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを前方に設置したとき



• [セカンドルーム]：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーをそれぞれ別の部屋に設置したとき



ご注意

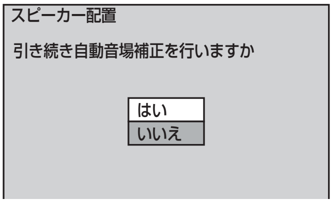
• 別の部屋に設置したサラウンドスピーカーの音声は、フロントスピーカーと同じ音声になります。

6 ⊕（決定）を押す。

選んだ設定が有効になります。

7 ↑/↓で［はい］または［いいえ］を選び、⊕（決定）を押す。

• [はい]：引き続き［自動音場補正］を行います。「自動でスピーカーを設定する」の手順4をご覧ください（81ページ）。
• [いいえ]：[スピーカー配置］を終了します。



ご注意

• サラウンドサウンドを楽しむために、スピーカーの位置を変えた場合は、[スピーカー配置］と［自動音場補正］の再設定を行うことをおすすめします。
• ［自動音場補正］を行う場合、測定マイクをつなぐ必要があります。
• 選択した［スピーカー配置］の設定は本体の表示窓に表示されます。音が出るスピーカーが点灯するわけではありません。
• ［スピーカー設定］の［接続］を変更した場合、［スピーカー配置］の設定は［標準］に戻ります。

自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正機能））によって自動的に最適なサラウンドサウンドを設定します。

ご注意

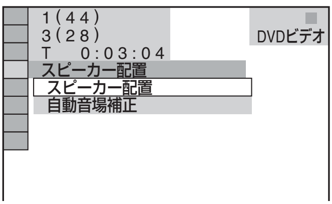
- ［自動音場補正］が始まると大きな測定音が出ます。測定中は音量の調整ができません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。

1 FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

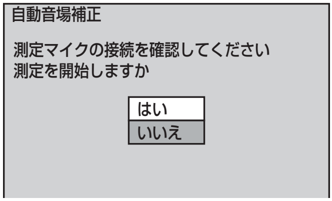
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で ［スピーカー配置/自動音場補正］を選び、⊕（決定）を押す。

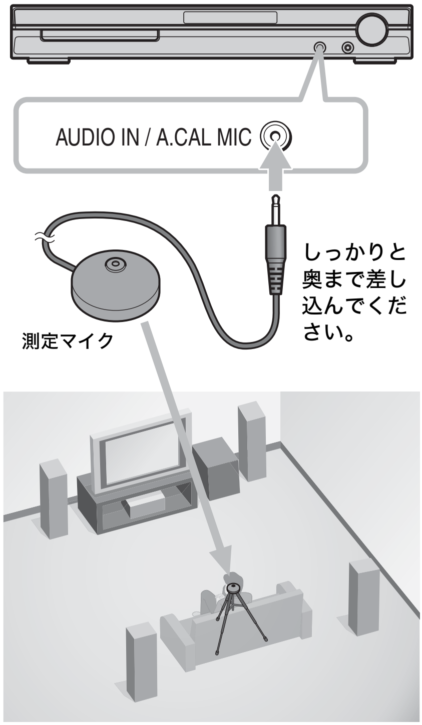


4 ↑/↓で［自動音場補正］を選び、⊕（決定）を押す。

［自動音場補正］の設定画面が表示されます。



本体前面のA.CAL MIC端子に測定マイクをつなぎます。マイクは耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

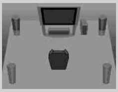


次のページへつづく

5 ↑/↓で［はい］を選び、⊕（決定）を押す。

［自動音場補正］を開始します。

測定中です　しばらくお待ちください



ご注意

- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア、21ページ）の外側に出てください。
- 本機を置く部屋の環境によって、測定に影響を及ぼす場合があります。
- エラーが表示されたら、メッセージにしたがい、［はい］を選んでください。
  エラーメッセージは以下のときに表示されます。
  ーヘッドホンをつないでいる。
  ー測定マイクがつながれていない。
  ーフロントスピーカー /サラウンドスピーカーが正しくつながれていない。
  ーサブウーファーが正しくつながれていない。

6 ←/↑/↓/→で［はい］または［いいえ］を選び、⊕（決定）を押す。

■測定の終了

測定マイクを抜き、［はい］を選びます。測定結果が反映されます。

測定が終了しました

フロントL：	5.00m	0.0dB
フロントR：	5.00m	0.0dB
センター：	5.00m	＋1.0dB
サブウーファー：	5.00m	＋4.0dB
サラウンドL：	3.00m	－2.0dB
サラウンドR：	3.00m	－2.0dB

この測定結果でよい場合は測定マイクを抜いて「はい」を選択してください

はい　いいえ

■測定の異常終了

メッセージにしたがい［はい］を選び、もう一度測定を行います。

測定が異常終了しました

スピーカーの接続を確認してください
もう一度測定を行いますか

はい
いいえ

ちょっと一言

- 視聴位置とスピーカーの距離や、スピーカー接続を確認することできます。詳しくは89ページをご覧ください。

ご注意

- 自動音場補正中は以下の操作を行わないでください。
  ー 電源を切る。
  ー ボタンを押す。
  ー 音量を変える。
  ー ファンクションを切り換える。
  ー ディスクを入れたり出したりする。
  ー ヘッドホンをつなぐ。
  ー 測定マイクを抜く。

設定画面を使う

DVDファンクション時、テレビに表示される設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は113ページをご覧ください。

ご注意

- あらかじめ再生条件が設定されているディスクがあります。その場合はディスクに記録されている情報が有効になります。

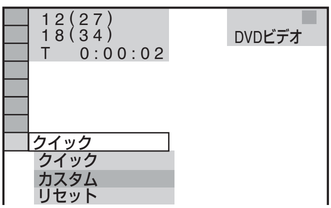
1 FUNCTION＋/－ボタンを繰り返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

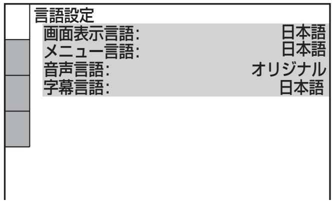
3 ↑/↓で [設定] を選び、⊕(決定) を押す。

[設定] の選択項目が表示されます。



4 ↑/↓で [カスタム] を選び、⊕(決定) を押す。

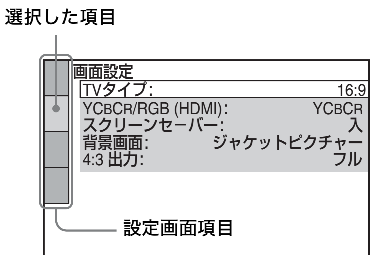
設定画面が表示されます。



5 ↑/↓で [言語設定]、[画面設定]、[視聴設定]、[スピーカー設定] の中から設定したい項目を選び、⊕(決定) を押す。

選択した項目の画面が表示されます。

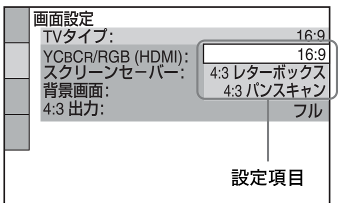
例：[画面設定]



6 ↑/↓で項目を選び、⊕(決定) を押す。

項目の設定項目が一覧表示されます。

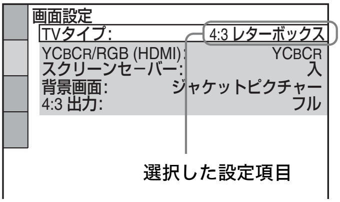
例：[TVタイプ]



次のページへつづく

7 ↑/↓で設定項目を選び、⊕（決定）を押す。

設定項目が選ばれ、設定が終了します。



設定画面での設定をお買い上げ時の設定に戻す

1 手順4で［リセット］を選び、⊕（決定）を押す。

2 ↑/↓ で［はい］を選ぶ。
ここで［いいえ］を選び、このリセットの作業をやめてコントロールメニュー画面に戻ることもできます。

3 ⊕（決定）を押す。
84～91ページで説明する設定がすべてお買い上げ時の設定に戻ります。リセットが完了するのに数秒かかります。リセットしている間はI/⏻（電源）ボタンを押さないでください。

ご注意

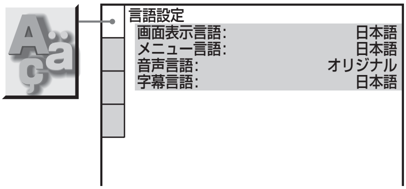
- リセットをしたあと、本体にディスクが入っていない状態で電源を入れると、メッセージが画面に表示されます。⊕（決定）を押すと、クイック設定をする画面が表示されますので、画面にしたがってクイック設定を行います（20ページ）。CLEARボタンを押すと通常の画面に戻ります。

表示言語や音声言語の設定をする

（言語設定）

画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で［言語設定］を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（83ページ）をご覧ください。



■［画面表示言語］

画面の表示言語を切り換えます。

■［メニュー言語］（DVDビデオのみ）

メニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■［音声言語］（DVDビデオのみ）

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
［オリジナル］を選んだときは、ディスクで優先されている言語が選ばれます。

■［字幕言語］（DVDビデオのみ）

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
［音声連動］を選んだときは、字幕言語は、音声の言語に合わせて切り換わります。

ちょっと一言

- ［メニュー言語］、［音声言語］、［字幕言語］で［その他→］を選んだときは、言語コード一覧表（105ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

ご注意

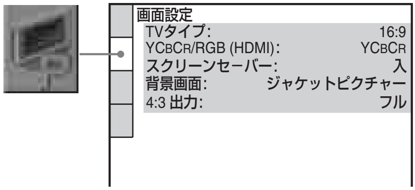
- ［メニュー言語］、［音声言語］、［字幕言語］で選んだ言語がDVDビデオに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます。（ディスクによっては自動で言語が選ばれないものがあります。）

画像に関する設定をする

（画面設定）

つないだテレビに合わせて画像に関する設定ができます。お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で［画面設定］を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（83ページ）をご覧ください。



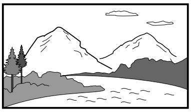
■［TVタイプ］

つないだテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは4：3画面テレビ）を設定します。

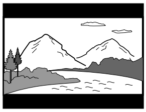
［16:9］	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
［4:3 レターボックス］	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
［4:3 パンスキャン］	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。

次のページへつづく

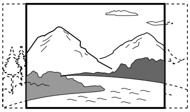
16:9



4:3 レターボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

- DVDによっては［4:3 レターボックス］あるいは［4:3 パンスキャン］に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■［YCBCR/RGB (HDMI)］

HDMI出力端子から出力される映像信号の種類を選びます。

［YCBCR］	YCBCR信号を出力します。
［RGB］	RGB信号を出力します。

ご注意

- 画像が乱れる場合は［RGB］に設定してください。
- DVI端子とつないでいるときは、設定に関係なくRGB信号を出力します。

■［スクリーンセーバー］

本機を操作しない状態で15分以上経過するか、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）を15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

［入］	スクリーンセーバーを使います。
［切］	スクリーンセーバーを使いません。

■［背景画面］

停止中やCD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

［ジャケットピクチャー］	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にします。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、［グラフィックス］の画像が表示されます。
［グラフィックス］	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にします。
［青］	画面の背景色を「青」にします。
［黒］	画面の背景色を「黒」にします。

■［4:3出力］

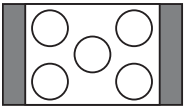
この設定は、［画面設定］で［TVタイプ］を［16:9 ］に設定したときに有効です。

縦横比の設定を変えることができない16:9のプログレッシブ対応テレビなどで、縦横比4:3のプログレッシブ信号が正しい縦横比で表示されないときに、設定することができます。テレビで縦横比を変えることができるときは、本機ではなくテレビ側で設定を変更してください。HDMI接続またはコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUT）からのプログレッシブ出力に対してのみ有効です。

ご注意

- この設定はVIDEO FORMATボタンを押して「PROGRE」を選んでいるときのみ有効です(28ページ)。

[フル]	お使いのテレビで縦横比が変えられるときに選んでください。
[ノーマル]	お使いのテレビで縦横比が変えられないときに選んでください。16:9の縦横比で、画像の左右に黒い帯がある状態で映し出されます。



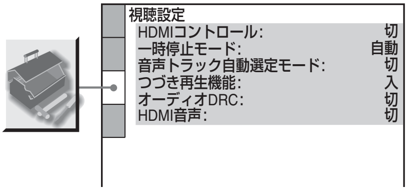
縦横比16:9のテレビ画面

視聴に関する設定をする

(視聴設定)

再生などに関する設定ができます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で[視聴設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」(83ページ)をご覧ください。



■[HDMIコントロール]

HDMIコントロールの機能の入／切を切り換えます。本機とテレビをHDMIケーブルでつないだときに機能します。HDMIコントロールを[入]にすると、以下の機能が使えるようになります。

- 電源オフ連動
- ワンタッチ再生
- システムオーディオコントロール

詳しくは付属のHDMIコントロールガイドをご覧ください。

[切]	HDMIコントロール機能を使いません。
[入]	HDMIコントロール機能を使います。HDMIケーブルでつながれた機器を相互に操作できます。

ご注意

- テレビとHDMI接続をしないで[入]を選ぶと[HDMIの接続を確認してください]が表示され、[入]を選ぶことができません。

次のページへつづく

■［一時停止モード］（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）
一時停止中の画像を選びます。

［自動］	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られます。
［フレーム］	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られます。

■［音声トラック自動選定モード］（DVDビデオのみ）
複数の音声記録方式が用意されているDVDビデオを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTS、MPEG音声トラック）を優先して再生できます。

［切］	優先しません。
［入］	優先します。

ご注意
- この設定を［入］にすると、言語が切り換わることがあります。これは［音声トラック自動選定モード］の設定が［言語設定］の［音声言語］（84ページ）より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックの順で優先されます。

■［つづき再生機能］（DVDビデオ、ビデオCDのみ）
つづき再生機能の入/切を切り換えます。

［入］	つづき再生するポイントを記録します。
［切］	つづき再生を記録しません。現在本機で再生しているディスクのみつづき再生をします。

■［オーディオDRC*］（DVDビデオのみ）
サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。

* Dynamic Range Compressionの略称です。

［切］	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
［スタンダード］	レコーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
［最大］	ダイナミックレンジを完全に圧縮します。

■［HDMI音声］
HDMI出力端子から出力される音声信号のタイプを選びます。

［切］	音声は出力されません。
［入］	すべての音声フォーマットは、サンプリング周波数48kHz以下、解像度16 bitのPCM 2chに変換されて出力されます。

ご注意
- ［入］に設定してHDMIケーブルでテレビをつないだ場合、テレビへ出力する音声には、オーディオDRC、A/V SYNC、DYNAMIC BASS、MOVIE/MUSICの各機能、またサウンドフィールドが機能しません。

スピーカーに関する設定をする

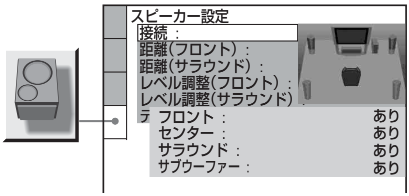
（スピーカー設定）

サラウンドを十分に楽しむために、スピーカーの接続や、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

設定画面で［スピーカー設定］を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（83ページ）をご覧ください。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています。

ご注意

- ヘッドホンを本機につないでいると設定を行うことができません。



設定を変更している途中で、お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでCLEARボタンを押す。
ただし［接続］の設定のみお買い上げ時の設定に戻りません。

■［接続］

センタースピーカーやサラウンドスピーカーをつながない場合は、［センター］や［サラウンド］を設定しなおします。フロントスピーカーとサブウーファーの設定は変えられません。

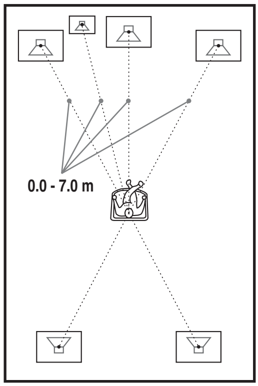
［フロント］	あり
［センター］	あり：通常はこの設定にします。 なし：センタースピーカーをつながない場合は［なし］にします。
［サラウンド］	あり：通常はこの設定にします。 なし：サラウンドスピーカーをつながない場合は［なし］にします。
［サブウーファー］	あり

ご注意

- ［接続］の設定を変えると、［スピーカー配置］は［標準］に戻ります。

■［距離（フロント）］

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。
クイック設定（20ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

［L/R］ 3.0 m*	0.0m～7.0mの範囲で設定できます。
［センター］ 3.0 m* （［接続］の［センター］を［あり］に設定したときのみ）	0.0m～7.0mの範囲で設定できます。

次のページへつづく

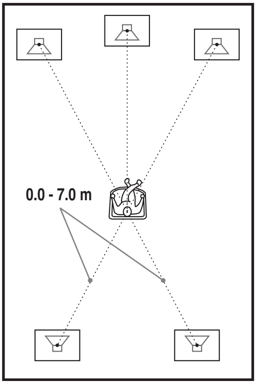
[サブウーファー] 3.0 m*	0.0m〜7.0mの範囲で設定できます。

* クイック設定（20ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

■ [距離（サラウンド）]

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

クイック設定（20ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

[L/R] 3.0 m* （[接続］の［サラウンド］を［あり］に設定したときのみ）	0.0m〜7.0mの範囲で設定できます。

* クイック設定（20ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

ご注意

- ［距離］の設定は入力信号によって無効になることもあります。
- 設定した距離が推奨範囲を超えているときは、［⚠↑/⚠↓ XX m］が表示されます。⚠↑は、推奨範囲より大きいとき、⚠↓は小さいときに表示されます。

■ [レベル調整（フロント）]

フロントスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは［テストトーン］を［入］にしておきます。

[L/R] 0.0 dB	−6.0dB〜+6.0dBの範囲で設定できます。
[センター] 0.0 dB （[接続］の［センター］を［あり］に設定したときのみ）	−6.0dB〜+6.0dBの範囲で設定できます。
[サブウーファー] 0.0 dB	−6.0dB〜+6.0dBの範囲で設定できます。

■ [レベル調整（サラウンド）]

サラウンドスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは［テストトーン］を［入］にしておきます。

[L/R] 0.0 dB （[接続］の［サラウンド］を［あり］に設定したときのみ）	−6.0dB〜+6.0dBの範囲で設定できます。

すべてのスピーカーの音量を一度に変える

本体のVOLUME調節つまみまたはリモコンのVOLUME＋/－ボタンで調整します。

■ [テストトーン]

［レベル調整（フロント）］や［レベル調整（サラウンド）］を調節するために、テストトーンを聞くことができます。

[切]	テストトーンは出ません。
[入]	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。［スピーカー設定］の項目を調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

テストトーンでスピーカーのレベルを調節する

テストトーンを聞くために、ボリューム位置を20～25くらいまであげてください。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で [設定] を選び、(決定) を押す。

[設定] の項目が表示されます。

3 ↑/↓で [カスタム] を選び、(決定) を押す。

設定画面が表示されます。

4 ↑/↓で [スピーカー設定] を選び、(決定) または→を押す。

5 ↑/↓で [テストトーン] を選び、(決定) または→を押す。

6 ↑/↓で [入] を選び、(決定) を押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

7 リスニングポジションで、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように、←/↑/↓/→で [レベル調整 (フロント)] および [レベル調整 (サラウンド)] の設定を調節する。

レベル調整している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

8 調節が終わったら、(決定) を押す。

すべてのスピーカーについて行ってください。

9 すべてのスピーカーの調整が終わったら、↑/↓で [テストトーン] を選び、(決定) を押す。

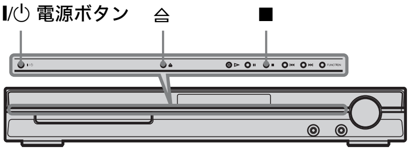
10 ↑/↓で [切] を選び、(決定) を押す。

ご注意

- テストトーンはHDMI端子からは出力されません。

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

登録したラジオ局など、各設定項目をお買い上げ時の設定に戻すことができます。



1 **I/⏻ 電源ボタンを押して本体の電源を入れる。**

2 **■、≙、I/⏻ 電源ボタンを同時に押す。**

表示窓に「COLD RESET」が表示され、設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

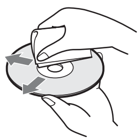
- 再生面に手を触れないように持ちます。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
→「STANDBY」の表示が消えてから I/⏻電源ボタンを押す。

本体の表示窓に「PROTECTOR」や「PUSH POWER」が交互に表示される。

→ I/⏻電源ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」の表示が消えたら以下の項目を確認する。
- スピーカーコードがショートしていないか？
- 付属のスピーカーを使っているか？
- 本体の通気孔がふさがれていないか？

上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

映像

映像が出ない。

→ 映像コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
→ 映像コードが断線している。
→ S映像コード（別売り）を使って本機のS映像出力端子（MONITOR OUTのS VIDEO）につなぐときは、お使いのテレビ側でもS映像入力端子につなぐ（25ページ）。
→ コンポーネント映像コード（別売り）を使って本機のコンポーネント映像出力端子

次のページへつづく

（COMPONENT VIDEO OUT）につなぐときは、お使いのテレビ側でもコンポーネント映像入力端子につなぐ（25ページ）。
- テレビの入力端子を間違えている（14、25ページ）。
- テレビの入力切り換えで本機の映像が映るように切り換えていない。
- プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、プログレッシブ設定にすると画像が乱れる。その場合は、VIDEO FORMATボタンを押してインターレース（お買い上げ時の設定）にする（28ページ）。HDMIケーブルがつながれている場合は、抜いてからインターレースにする。
- 接続コードをつなぎなおす。
- HDMIでつなぐ場合、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応していない機器に本機をつないでいる（コントロールユニットの表示窓に「HDMI」が点灯していない）（26ページ）。
- HDMIでつないでいる場合は、VIDEO FORMATボタンを押してHDMI映像信号を変える（27ページ）。
  テレビと本機をHDMI以外でつないで、テレビの入力を合わせ、VIDEO FORMATボタンを押してHDMI映像信号を変えてから、テレビをHDMI入力に切り換える。それでも映像が出ない場合は、他の解像度にする。
- DVDファンクション時（FUNCTION＋/－ボタンで「DVD」を選んでいる状態）のみ、コンポーネント映像出力端子からは映像信号を出力し、HDMI出力端子からは映像/音声信号が出力される。
- HDMIでつなぐとき、テレビによってはHDMI入力を有効にしなければならない場合がある。テレビの設定を確認する。

映像が乱れる。
- ディスクに汚れや傷がある。
- プログレッシブ方式に対応しているテレビでも、プログレッシブに設定すると画像が乱れる場合がある。その場合は、インターレース（お買い上げ時の設定）にする（28ページ）。
- 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビにつないでいると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接つなぐ（25ページ）。
- 本機が安定した場所に設置されているか確認する。
- HDMIでつないでいるときに本機の映像やS映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEOやS VIDEO）からの映像が乱れている場合は、VIDEO FORMATボタンを押してHDMI映像信号を変える。

設定画面の［画面設定］の［TVタイプ］で設定した画像の形で再生できない。
- 画像の形が固定されているディスクを再生している。

テレビ画面に色むらが起きる。
- 本機のフロントスピーカーとセンタースピーカーは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用しているが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じる。色むらが起きた場合は、以下の項目を確認する。
  - ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使用する場合は十分に（約30ｃｍ）離す。
  - それでも色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れる。
  - ハウリングが生じたら、スピーカーをテレビより離して置く。
  - スピーカーの近くに磁気を発生するものがないように注意する。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合がある。磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

音声

音が出ない。
- スピーカーコードと本体がしっかり差し込まれていない。（15ページ）
- 「MUTING ON」と表示されている場合は、リモコンのMUTINGボタンを押す。
- 一時停止、スロー再生になっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
- 早送り、早戻しになっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。

→ スピーカーが正しくつながれているか確認する（14ページ）。
→ つないだ他の機器の音声が出ないときは、その機器の音声出力の設定を確認する。
→［視聴設定］の［HDMI音声］を［入］に設定する（88ページ）。

HDMI出力端子から音が出ない。
→［視聴設定］の［HDMI音声］を［入］に設定する（88ページ）。
→ 本機のHDMI出力端子をDVI（Digital Visual Interface）デバイスを持った機器につなぐと、音声は出力されない。
→ 以下の方法を試す。
- 本機の電源を入れなおす。
- つないでいる機器の電源を入れなおす。
- HDMIケーブルをいったん抜いて差しなおす。

左右のスピーカーのバランスが悪い、または音声が逆になっている。
→ スピーカーやつないだそのほかの機器が正しくつながれているか確認する。
→ スピーカーの設置を確認する（19ページ）。

サブウーファーから音が出ない。
→ スピーカーの接続と設定を確認する（14、89ページ）。
→ サウンドフィールドを「A.F.D. STD」に設定する（38ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。
→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。
→ 接続コードをモーターなどの機械、テレビ、または蛍光灯などから離す。
→ テレビからオーディオ機器を離して設置する。
→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。
→ ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCDやCD、MP3音声トラックを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。
→ AUDIOボタンを押して、音声を［ステレオ］にする（49ページ）。
→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。

サラウンド効果が得られない。
→ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（38ページ）。
→ スピーカーの接続と配置を確認する（14、89ページ）。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

センタースピーカーからしか音が出ない。
→ ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない。
→ スピーカーの接続と設定を確認する（14、89ページ）。
→ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（38ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、センタースピーカーの音が小さく記録されているものがある。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。
→ スピーカーの接続と設定を確認する（14、89ページ）。
→ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（38ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがある。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

表示窓に表示されているスピーカーから音が出ない。
→ 表示窓に表示されるのは音が出るスピーカーではなく、選択されている［スピーカー配置］です（38、79ページ）。

音声の始まりが途切れる。
→ 映画や音楽のサウンド効果を「MOVIE」または「MUSIC」に設定する（37ページ）。
→ サウンドフィールドを「A.F.D. STD」にする（38ページ）。

次のページへつづく

操作

放送局が受信できない。

➔ アンテナが正しくつながれているか確認する。
アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使用したりする。

➔ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。

➔ プリセットチューニングしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（64ページ）。

➔ DISPLAYボタンを押して受信している周波数を確認する。

リモコンで操作できない。

➔ リモコンと本体との間に障害物がある。

➔ リモコンと本体との距離が離れている。

➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。

➔ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

➔ ディスクが入っていない。

➔ ディスクが裏返しに入っている。
ラベル面を上に向ける。

➔ ディスクが斜めにずれて入っている。

➔ 本機では再生できないディスクを入れている（9ページ）。

➔ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。

➔ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れなおしてから再生を始める。

➔ 規格から外れた一部ディスクは、本機では再生できない場合がある。
ある特定のディスクが再生できない場合は、裏表紙に書かれているソニーの相談窓口まで問い合わせる。

MP3音声トラックが再生できない。

➔ ISO9660 レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Joliet に準拠していないMP3 音声トラックが記録されている。

➔ データDVDにUDF （Universal Disk Format）に準拠していないMP3音声トラックが記録されている。

➔ 拡張子が「.MP3」になっていない。

➔ 拡張子は「.MP3」だが、MP3音声トラック以外のデータ形式になっている。

➔ データがMPEG1 Audio Layer 3でない。

➔ 本機は MP3PROで記録された音声は再生できない。

➔ ［音声映像選択モード］設定が［映像（JPEG）］に設定されている（60ページ）。

➔ ［音声映像選択モード］設定を［音声（MP3）］に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

JPEG画像ファイルが再生できない。

➔ ISO9660レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Jolietに準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。

➔ データDVDにUDF （Universal Disk Format）に準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。

➔ 拡張子が「.JPG」または「.JPEG」になっていない。

➔ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

➔ 横3,072×縦2,048ドット以上、または200万画素を超えるプログレッシブJPEG画像ファイル（主にインターネットのウェブサイトで使用）は表示できない。

➔ ［音声映像選択モード］設定が［音声（MP3）］になっている（60ページ）。

➔ ［音声映像選択モード］設定を［映像（JPEG）］に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生が同時に始まる。

➔ ［音声映像選択モード］設定で［自動］が選択されている（60ページ）。

JPEG画像ファイルのアルバム／ファイル名が正しく表示されない。

➔ 本機で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は「＊」と表示される。

再生がディスクの最初から始まらない。

→ プログラムまたはシャッフル、リピート再生になっている。ディスクを再生する前にCLEARボタンを押してこれらの機能を解除する。
→ リジューム再生になっている。停止中に、本体またはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（44ページ）。
→ 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

→ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

再生が自動的に止まる。

→ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生などの操作ができない。

→ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて確認する。

希望する言語で画面表示されない。

→ 設定画面の［言語設定］の［画面表示言語］で希望の言語を選ぶ（84ページ）。

音声言語を変更できない。

→ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
→ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

→ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
→ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

→ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

→ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない（54ページ）。
→ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

ディスクを取り出すことができず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

→ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

データCD／データDVDを再生中に、テレビ画面に［データエラー（AUDIO)］または［データエラー（IMAGE)］と表示される。

→ 再生しようとしているMP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルが壊れている。
→ データがMPEG1 Audio Layer 3でない。
→ JPEG画像ファイルがDCFフォーマットでない。
→ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

本機が正常に作動しない。

→ 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れる。

本体のボタンを押すと「CHILD LOCK」と表示され操作できない。

→ チャイルドロック機能をオフにする（74ページ）。

HDMIコントロール機能が作動しない。

→ 表示窓に「HDMI」と点灯しない場合は、HDMI接続を確認する（26ページ）。
→ ［視聴設定］の［HDMIコントロール］を［入］にする（87ページ）。
→ 本機につないだ機器がHDMIコントロール機能に対応しているか確認する。
→ 本機につないだ機器の電源コードがしっかりつながれているか確認する。
→ 本機につないだ機器のHDMIコントロール機能の設定を確認する。
→ HDMI接続を変えた場合、電源コードをコンセントにつないだり抜いたりした場合、または停電になった場合は、［視聴設定］の［HDMIコントロール］を［切］にしてからもう一度［入］にする（87ページ）。
→ HDMIコントロール機能について詳しくは、付属のHDMIコントロールガイドをご覧ください。

次のページへつづく

システムオーディオコントロール機能を使用中に本機とテレビから音が出ない。

➔ ［視聴設定］の［HDMI音声］を［入］に設定する（88ページ）。

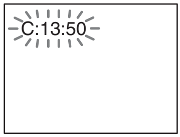
➔ つないだテレビがシステムオーディオコントロール機能に対応しているか確認する。

➔ システムオーディオコントロール機能について詳しくは、付属のHDMIコントロールガイドをご覧ください。

自己診断機能

（本体の表示窓に文字や数字が表れたとき）

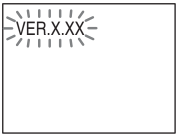
本機を故障から守るために、本機には自己診断機能がついています。本体の表示窓に、「C 13 50」のような5文字のサービスナンバーが現れたときは、以下の項目を確認してください。



サービスナンバーの最初の3文字	原因と対応
C13	ディスクが汚れている ➔ 柔らかい布でディスクを拭く（93ページ）。
C31	ディスクが正しく入っていない。 ➔ 本体の電源を切り、再び入れた後にディスクを正しく入れなおす。
E XX （XXは数字）	故障を防ぐために、自己診断機能が働いている。 ➔ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。そのときは、5文字のサービスナンバーを知らせる。 例：E 61 10

画面にバージョン番号が表示されたときは

本機の電源を入れたときに、画面にバージョン番号［VER.X.XX］（Xは数字）が表示されることがあります。この表示はソニーサービスで使用するものなので、故障ではありませんが、そのままでは通常の操作はできません。電源を入れなおしてから操作してください。



保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

部品の保有期間について

当社では、DVDホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DAV-DZ220
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

総合出力	850W
実用最大出力	
(JEITA**)	フロント部：142 W + 142 W（3Ω） センター部*：142 W（3Ω） サラウンド部*：142 W + 142 W（3Ω） サブウーファー部*：140 W（3Ω）

* ソースによっては出力しない場合があります。

入力（アナログ）	
TV、VIDEO	感度：450/250mＶ RMS
AUDIO IN	感度：250/125mＶ RMS
入力（デジタル）	
TV（同軸入力／光入力）	入力インピーダンス：75Ω／ー
出力（アナログ）	
PHONES	ステレオミニジャック、低および高インピーダンスヘッドホン対応

DVD部

レーザー	半導体レーザー (DVD : λ＝650nm) (CD : λ＝790nm) 放出持続時間：連続
信号方式	JEITA標準**、NTSCカラー方式

チューナー部

回路方式	PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部	
受信周波数	76.0－90.0MHz（100kHz間隔）
アンテナ	ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
中間周波数	FM：10.7MHz
AMチューナー部	
受信周波数	531－1,602kHz（9kHz間隔）
アンテナ	ループアンテナ
中間周波数	450kHz

映像部

出力	映像：1Vp-p 75Ω S 映像：Y: 1Vp-p 75Ω C: 0.286Vp-p, 75Ω コンポーネント 映像： Y：1Vp-p、C_B, C_R：0.7Vp-p 75Ω HDMI出力：Type A（19ピン）
入力	映像：1Vp-p 75Ω

スピーカー
フロント/サラウンド（SS-TS71）

方式　　　　バスレフ型、防磁型（JEITA**）
使用ユニット　6.5cm コーン型
定格インピーダンス
　　　　　　3Ω
最大外形寸法　93×162×75mm
　　　　　　（幅/高さ/奥行き）
質量　　　　約0.6kg

センター（SS-CT72）

方式　　　　密閉型、防磁型（JEITA**）
使用ユニット　3×6cm コーン型
定格インピーダンス
　　　　　　3Ω
最大外形寸法　381×48×62mm
　　　　　　（幅/高さ/奥行き）
質量　　　　約0.5kg

サブウーファー（SS-WS71）

方式　　　　バスレフ型
使用ユニット　16cm コーン型
定格インピーダンス
　　　　　　3Ω
最大外形寸法　197×322×345mm
　　　　　　（幅/高さ/奥行き）
質量　　　　約5.6kg

本体

電源　　　　AC 100V、50/60Hz
消費電力　　150W
　　　　　　（スタンバイモードのとき：0.3W）
出力電圧（デジタルメディアポート）
　　　　　　DC5V
出力電流（デジタルメディアポート）
　　　　　　700mA
最大外形寸法　430×63×380mm（幅/高さ/奥行き）（突起部分を含む）
質量　　　　約4.2kg

**JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

付属品

- フロントスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）
- サラウンドスピーカー（2）
- サブウーファー（1）
- AMループアンテナ（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- スピーカーコード（6色、赤／白／緑／灰／青／紫）
- 映像コード（1）
- リモコン（1）
- 単3形乾電池（R6）（2）
- 測定マイク（1）
- スピーカーパッド（1セット）
- 取扱説明書
- HDMIコントロールガイド（1）
- かんたん接続・設定ガイド（カード）（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（１）
- 保証書（1）

付属品がそろっていないときは、お手数ですがお買い上げ店にご連絡ください。
本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info

- 待機時消費電力　0.3W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善

用語解説

アルバム

MP3音声トラックやJPEG画像ファイルを記録しているデータCDの中の単位の1つ。

インターレース（飛び越し走査）

通常のテレビ放送のNTSC方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現している。1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。従来のテレビの表示方式。

視聴制限

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDビデオの機能。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration）

ソニーが開発した自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration）は、スピーカーの距離やレベルを自動的に測定し、短時間で視聴環境のスピーカー設定を調整する。

シーン

PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

タイトル

DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）

著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL 表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック

ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。

ドルビーサラウンド（プロロジック）

ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、サラウンドに信号を出力する。サラウンドチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

ドルビープロロジックII

ソース本来の音質を損なうことなく空間的広がりを引き出す高音質、高性能のマトリックスサラウンドデコーダ。マトリックス処理により、2チャンネルソースをフルレンジの5チャンネルサラウンドに広げて再生する。

■ ミュージックモード
ミュージックモードでは、センター音像調整機能、前後バランス調整機能を使用して包囲感のある音場設定が可能。あらゆるステレオ音楽ソースに適している。

■ ムービーモード
ムービーモードではフロントとサラウンドのセパレーションを高めるためにサラウンドチャンネルディレイが加えられており、安定した音場定位を得ることができる。通常のステレオソース、ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの両方に適している。

ビデオCD
動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」(エムペグ1)を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC(プレイバックコントロール)機能を持ったバージョン2.0がある。

ビデオ素材、フィルム素材
DVD の映像素材の種類。ビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどのテレビ放送された番組(1秒30フレーム、60フィールド)をDVD に記録したもの。フィルム素材とは映画フィルム(1秒24コマ)をDVD に記録したもの。

ファイル
JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つ。

プレイバックコントロール(PBC)
ビデオCD(バージョン2.0)に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面(選択画面)を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

プログレッシブ(順次走査)
通常のテレビ放送のNTSCインターレース方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現し、1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。これに対してプログレッシブ方式の場合は、走査線を飛び越すことなく、NTSCで言えば525本の走査線を使って、1秒間に60枚の画像を映し出す。細かな文字や横線などの多い場面などで高画質な映像を再現できる。

マルチアングル
DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル(カメラの位置)で記録されていること。

マルチランゲージ
DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

AAC
BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング(Advanced Audio Coding)」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS
DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

次のページへつづく

DVD

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB（Gigaギガ Byteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタル、DTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声を楽しめる。

DVD-RW

DVD-RWとは、DVDビデオと同じサイズで、データの記録、書き換えが可能なディスク。
DVD-RWにはVRモードとビデオモードの2つのモードがある。ビデオモードで作られたDVD-RWはDVDビデオと同じフォーマットなのに対して、VRモードで作られたDVD-RWはプログラム、または編集が可能なディスクとなっている。

DVD+RW

DVD+RWとは、データの記録、書き換えが可能なディスクで、DVDビデオと同程度の記録方式を使っている。

HDMI

HDMIでは、1本のデジタルケーブルで、映像、音声の両方をつなぐことができる。
HDMI接続をすれば、高画質の映像と、マルチチャンネル音声の信号を、HDMIに対応したAV機器（テレビなど）にデジタルの信号を送ることができる。映像信号が現在のDVIに対応していれば、HDMI-DVI変換コードを使ってHDMI出力端子とDVI端子をつなぐことが可能。HDMIはHDCP著作権保護機能に対応しており、デジタル画像信号コーディングテクノロジーを採用している。

MPEG audio

デジタル音声の圧縮方式のひとつ。いくつかの規格があり、MPEG-1はMP3（MPEG-1 Audio Layer-3）、MPEG-2はDVDの音声フォーマットのひとつとして使用されている。

言語コード一覧表

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語
1027	Afar	1183	Irish	1347	Maori	1507	Samoan
1028	Abkhazian	1186	Scots Gaelic	1349	Macedonian	1508	Shona
1032	Afrikaans	1194	Galician	1350	Malayalam	1509	Somali
1039	Amharic	1196	Guarani	1352	Mongolian	1511	Albanian
1044	Arabic	1203	Gujarati	1353	Moldavian	1512	Serbian
1045	Assamese	1209	Hausa	1356	Marathi	1513	Siswati
1051	Aymara	1217	Hindi	1357	Malay	1514	Sesotho
1052	Azerbaijani	1226	Croatian	1358	Maltese	1515	Sundanese
1053	Bashkir	1229	Hungarian	1363	Burmese	1516	Swedish
1057	Byelorussian	1233	Armenian	1365	Nauru	1517	Swahili
1059	Bulgarian	1235	Interlingua	1369	Nepali	1521	Tamil
1060	Bihari	1239	Interlingue	1376	Dutch	1525	Telugu
1061	Bislama	1245	Inupiak	1379	Norwegian	1527	Tajik
1066	Bengali;	1248	Indonesian	1393	Occitan	1528	Thai
	Bangla	1253	Icelandic	1403	(Afan)Oromo	1529	Tigrinya
1067	Tibetan	1254	Italian	1408	Oriya	1531	Turkmen
1070	Breton	1257	Hebrew	1417	Punjabi	1532	Tagalog
1079	Catalan	1261	Japanese	1428	Polish	1534	Setswana
1093	Corsican	1269	Yiddish	1435	Pashto;	1535	Tonga
1097	Czech	1283	Javanese		Pushto	1538	Turkish
1103	Welsh	1287	Georgian	1436	Portuguese	1539	Tsonga
1105	Danish	1297	Kazakh	1463	Quechua	1540	Tatar
1109	German	1298	Greenlandic	1481	Rhaeto-	1543	Twi
1130	Bhutani	1299	Cambodian		Romance	1557	Ukrainian
1142	Greek	1300	Kannada	1482	Kirundi	1564	Urdu
1144	English	1301	Korean	1483	Romanian	1572	Uzbek
1145	Esperanto	1305	Kashmiri	1489	Russian	1581	Vietnamese
1149	Spanish	1307	Kurdish	1491	Kinyarwanda	1587	Volapük
1150	Estonian	1311	Kirghiz	1495	Sanskrit	1613	Wolof
1151	Basque	1313	Latin	1498	Sindhi	1632	Xhosa
1157	Persian	1326	Lingala	1501	Sangho	1665	Yoruba
1165	Finnish	1327	Laothian	1502	Serbo-	1684	Chinese
1166	Fiji	1332	Lithuanian		Croatian	1697	Zulu
1171	Faroese	1334	Latvian;	1503	Singhalese		
1174	French		Lettish	1505	Slovak		
1181	Frisian	1345	Malagasy	1506	Slovenian	1703	無指定

次のページへつづく

視聴制限地域コード

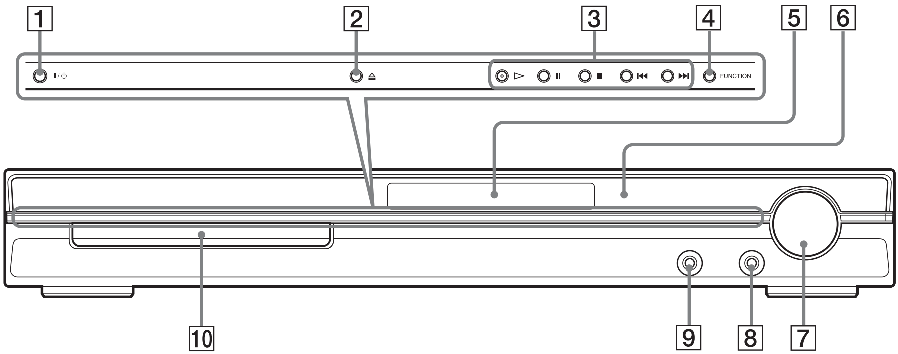
地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面



1 I/⏻電源ボタン（33）

2 ≙（ディスクトレイ開閉）ボタン（33）

3 操作ボタン（33）

4 FUNCTIONボタン（33）

5 表示窓（109）

6 Ⓡリモコン受光部（13）

7 VOLUME（音量）調節つまみ（33）

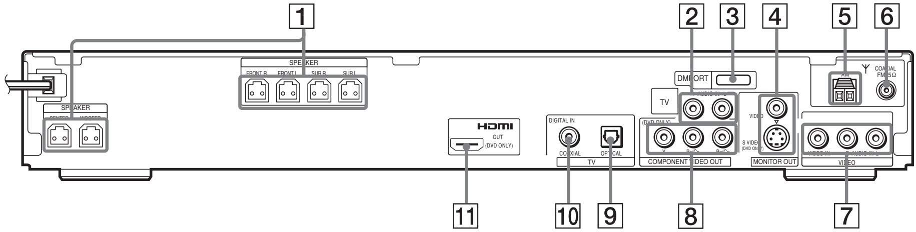
8 PHONES（ヘッドホン）端子（33）

9 AUDIO IN/A.CAL MIC（20、31、34、81）

10 ディスクトレイ（33）

次のページへつづく

本体後面



1 SPEAKER スピーカー出力端子（14）

2 アナログ音声入力端子（TV (AUDIO IN L/R)）（14）

3 デジタルメディアポート端子*（DMPORT）（31、73）

4 映像/S 映像出力端子（MONITOR OUT (VIDEO/S VIDEO)）（14、25）

5 AMアンテナ端子（14）

6 FMアンテナ端子（COAXIAL FM 75Ω）（14）

* この端子に接続するデジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

7 映像／アナログ音声入力端子（VIDEO (VIDEO IN/AUDIO IN L/R)）（31）

8 コンポーネント映像出力端子（CONPONENT VIDEO OUT）（25）

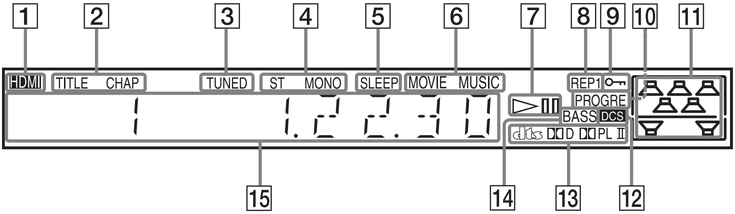
9 光デジタル音声入力端子（TV (DIGITAL IN OPTICAL)）（29）

10 同軸デジタル音声入力端子（TV (DIGITAL IN COAXIAL)）（29）

11 HDMI出力端子（HDMI OUT）（25）

本体の表示窓

本体表示窓のインジケータについて



1 HDMI出力端子と他の機器のHDCP準拠のHDMIまたはDVI入力端子と正しくつながれているときに点灯（25）

2 本体の表示窓にタイトルまたはチャプターの時間情報が表示されているときのみ点灯（DVDのみ）（52）

3 放送局を受信したときに点灯（ラジオのみ）（64）

4 モノラル/ステレオ効果（ラジオのみ）（64）

5 スリープモードのときに点灯（71）

6 MOVIE（ムービー）/MUSIC（ミュージック）モードのときに点灯（37）

7 再生状態（DVDファンクションのみ）

8 現在のリピート状態（48）

9 チャイルドロック機能がオンのときに点灯（74）

10 プログレッシブ信号が出力されているときに点灯（DVDファンクションのみ）（28）

11 選択されている ［スピーカー配置］を表示（79）

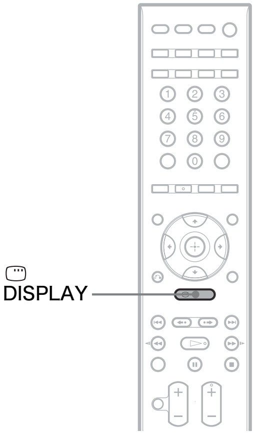
12 DCS（デジタルシネマサウンド）機能がオンになっているとき点灯（38）

13 現在の音声の状態 （JPEGを除く）

14 DYNAMIC BASS（ダイナミックバス）が選択されているときに点灯（71）

15 本機の状態を表示（チャプター、タイトル、トラック番号、時間情報、ラジオ周波数、再生状態、サウンドフィールドなど）

コントロールメニュー画面の見かた



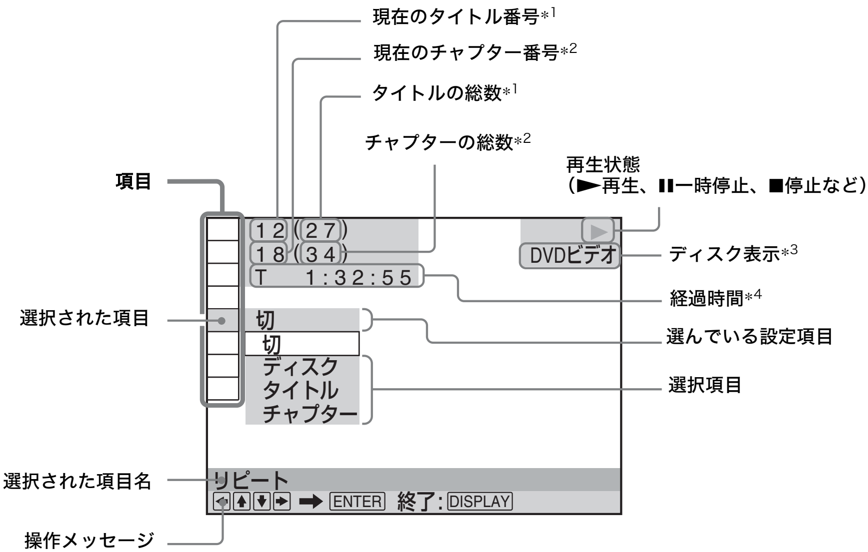
コントロールメニュー画面を使って、ファンクションを選んだり、関連する情報を選んだりします。DISPLAYボタンを繰り返し押すと、テレビの表示は以下のように切り換わります。

コントロールメニュー画面 1
↓
コントロールメニュー画面 2（特定のディスクのみ表示）
↓
コントロールメニュー画面 切

コントロールメニュー画面表示

コントロールメニュー 1、2はディスクの種類によって表示される項目が違います。詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

例：DVDビデオ再生中のコントロールメニュー画面　1



*1PBC 再生時のビデオ CD のシーン、ビデオ CD/CD のトラック、データ CD/ データ DVD のアルバムを表示します。
*2ビデオ CD のインデックス、データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイルを表示します。
*3スーパー VCD は［SVCD］と表示します。データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラックは MP3 ディスクとしてコントロールメニュー画面 1、JPEG 画像ファイルは JPEG ディスクとしてコントロールメニュー画面 2 に表示します。
*4JPEG 画像ファイルの場合は、コントロールメニュー画面 2 に日付を表示します。

コントロールメニュー画面表示を消すには

DISPLAYボタンを押す。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	項目名、機能、可能なディスクの種類
	［タイトル］（42 ページ）/［シーン］（42 ページ）/［トラック］（42 ページ） 再生するタイトル、シーン、トラックを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	［チャプター］（42 ページ）/［インデックス］（42 ページ） 再生するチャプター、インデックスを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	［トラック］（42 ページ） 再生するトラックを選びます。 CD DATA-CD DATA DVD
	［オリジナル / プレイリスト］（51 ページ） 再生するタイトルの種類、オリジナルのタイトルあるいは編集して作成されたプレイリストを選びます。 DVD-VR

その他

次のページへつづく

	[時間 / テキスト]（42 ページ） 経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します。DVD や CD のテキスト、MP3 音声トラック名を表示します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[スピーカー配置 / 自動音場補正]（79、81 ページ） スピーカーの配置を設定します。/ 自動で各スピーカーのレベルを調整します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[プログラム]（45 ページ） トラックを選んで好きな順に再生します。 VIDEO CD CD
	[シャッフル]（47 ページ） トラックをランダム（無作為）な順番で再生します。 VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[リピート]（48 ページ） ディスク全体（全タイトル / 全トラック / 全アルバム）または 1 つのタイトル / チャプター / トラック / アルバムを繰り返し再生します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[A/V SYNC]（55 ページ） 画像と音声のずれを調節します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[視聴制限]（75 ページ） 特定のディスクやシーンの再生を禁止する設定をします。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[設定]（83 ページ） [クイック] セットアップ（20ページ） つないだテレビに合う画面の縦横比やつないでいる [スピーカー配置] の設定、[自動音場補正] 開始の選択を行います。 [カスタム] セットアップ クイックセットアップに加えて、さまざまな設定をします。 [リセット] クイックセットアップ、カスタムセットアップでの設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[アルバム]（42 ページ） 再生するアルバムを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[ファイル]（42 ページ） 再生する JPEG 画像ファイルを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[日付]（54 ページ） JPEG 画像ファイルが撮影された日付を表示します。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド送り時間]（60 ページ） スライドショーの表示する間隔を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド効果]（60 ページ） スライドショーの表示が変わるときの効果を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[音声映像選択モード]（60 ページ） データ CD やデータ DVD を再生するときに、再生するデータの種類：MP3 音声トラック（音声）、JPEG 画像ファイル（映像）、または両方（自動）を選びます。 DATA-CD DATA DVD

ちょっと一言

- コントロールメニュー画面のアイコンは、[切] 以外を選んでいるときは緑に点灯します → （[プログラム]、[シャッフル]、[リピート]、[A/V SYNC] のみ）。[オリジナル/プレイリスト] アイコンは、[プレイリスト] を選んでいるときに緑に点灯します。

設定画面項目一覧表

設定画面で以下の項目を設定することができます。
表示される画面の順番は、実際の画面と異なる場合があります。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

言語設定

- 画面表示言語
  - 日本語
  - ENGLISH
- メニュー言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 音声言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 字幕言語
  - 表示される言語の一覧から選びます

視聴設定

- HDMIコントロール
  - 切
  - 入
- 一時停止モード
  - 自動
  - フレーム
- 音声トラック自動選定モード
  - 切
  - 入
- つづき再生機能
  - 入
  - 切
- オーディオDRC
  - 切
  - スタンダード
  - 最大
- HDMI音声
  - 切
  - 入

画面設定

- TVタイプ
  - 16:9
  - 4:3レターボックス
  - 4:3パンスキャン
- YCBCR/RGB (HDMI)
  - YCBCR
  - RGB
- スクリーンセーバー
  - 入
  - 切
- 背景画面
  - ジャケットピクチャー
  - グラフィックス
  - 青
  - 黒
- 4:3出力
  - フル
  - ノーマル

スピーカー設定

- 接続
  - フロント
    - あり
  - センター
    - あり
    - なし
  - サラウンド
    - あり
    - なし
  - サブウーファー
    - あり
- 距離（フロント）
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
  - センター — 0.0 m - 7.0 m
  - サブウーファー — 0.0 m - 7.0 m
- 距離（サラウンド）
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
- レベル調整（フロント）
  - L — -6.0 dB - +6.0 dB
  - R — -6.0 dB - +6.0 dB
  - センター — -6.0 dB - +6.0 dB
  - サブウーファー — -6.0 dB - +6.0 dB
- レベル調整（サラウンド）
  - L — -6.0 dB - +6.0 dB
  - R — -6.0 dB - +6.0 dB
- テストトーン
  - 切
  - 入

システムメニュー項目一覧表

リモコンで以下のシステムメニュー項目を設定することができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

システムメニュー

- MEMORY[1)] ― MEMORY 1-20 (FM)、MEMORY 1-10 (AM)
- FM MODE[2)]
  - STEREO
  - MONO
- NAME IN[1)]
- SLEEP ― SLEEP OFF、SLEEP 90M-1M
- DIMMER
  - DIMMER OFF
  - DIMMER ON
- DEMO
  - DEMO ON
  - DEMO OFF
- ATTENUATE[3)]
  - ATT ON
  - ATT OFF
- CHILD LOCK
  - OFF
  - ON

1) ファンクションが「TUNER FM」または「TUNER AM」のときのみ設定することができます。
2) ファンクションが「TUNER FM」のときのみ設定することができます。
3) 「ATTENUATE」はファンクションが「VIDEO」、「TV」または「AUDIO」のときのみ設定することができます。

索引

次のページへつづく

A-Z、数字

リモコン

アルファベット順

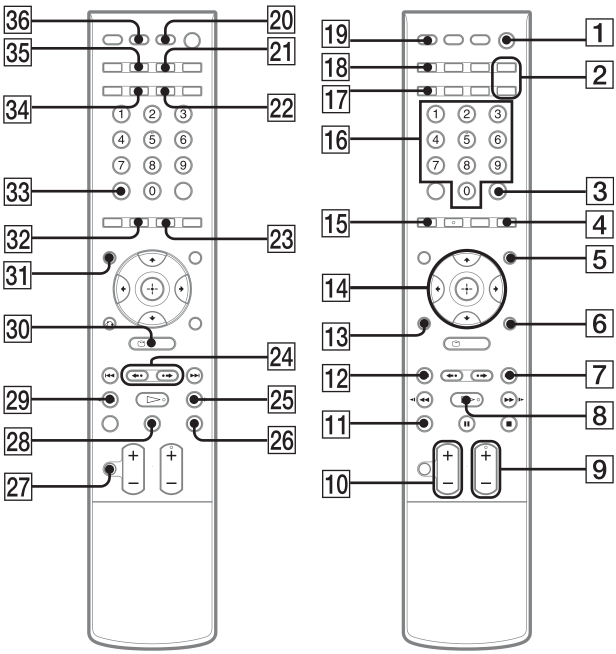
A - O

P - Z

その他

* ENTERボタンは ⊕（決定）ボタンと同じはたらきをします。テレビの操作中は、ENTERボタンはチャンネルの選択、⊕（決定）ボタンはメニュー項目の選択に使います。

**▷、数字ボタンの5、AUDIO、SOUND FIELD+（TV CH+）ボタンには突起がついています。本機を操作するときの参考にしてください。



＊ 3 2 1 7 3 9 9 0 3 ＊ (1)

よくあるお問い合わせ、解決方法などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in China http://www.sony.jp/pr/support/sup_hometheater.html